

(公財) パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会 御中

第 32 回パシフィック・ミュージック・フェスティバル 2022

来場者アンケート調査結果報告書

2023 年 3 月
宮部 潤一郎

目 次

1. はじめに	1
2. 調査実施及び回収状況	1
2-1. 調査内容と調査票	1
2-2. 調査実施コンサートと回収状況	2
3. 集計結果分析その1 札幌調査結果の時系列比較	3
3-1. 初来場時期	3
3-2. 演奏会来場のきっかけ	4
3-3. 来場形態	5
3-4. 情報入手経路	7
3-5. 情報入手の容易度	8
3-6. PMF 認知度	10
3-7. 客演アーティスト	11
3-8. 公式サイトによる配信の視聴経験	12
3-9. PMF に関する意識	12
3-10. 自由記入欄	18
3-11. フェースシート	19
4. 集計結果分析その2 道内演奏会での調査結果	21
4-1. 初来場時期	21
4-2. 演奏会来場のきっかけ	23
4-3. PMF の認知度	24
4-4. PMF に関する意識	25
4-5. 演奏会の感想	28
4-6. フェースシート	29
5. 集計結果分析その3 首都圏演奏会の調査結果	30
5-1. 演奏会に関する情報入手	30
5-2. 首都圏での PMF 演奏会来場	31
5-3. 初来場時期	31
5-4. 札幌への来訪経験	32
5-5. PMF に関する意識	32

5-6. PMF の認知度	34
5-7. フェースシート	36
6. JAF 連携によるアンケート調査	37
6-1. 認知時期	37
6-2. 来場経験	37
6-3. 視聴経験	38
6-4. 情報源	39
6-5. 音楽ジャンルの嗜好	40
6-6. PMF の認知度	41
6-7. フェースシート	42
まとめ	43
付属資料	46

1. はじめに

2022年PMF演奏会来場者を対象としたアンケート調査の結果報告である。この調査は2014年から実施しており、2022年で8回目である。PMFは新型コロナウイルス感染症の影響により2020年は中止、2021年は国内在住のアカデミー生を主体とし、教授陣はリモートでの指導という限定された内容で実施されたが、それも会期半ばで中止を余儀なくされた。2022年は海外からのファカルティやアカデミー生の参加もあり、本来の姿を取り戻すことができた。

2021年の来場者調査も質問票の配布ではなく、PMF公式サイト上に特設ページを設け、そこへのアクセスを求める方式で実施したが、2022年は従来の調査票の配布で実施した。

本調査の実施に当たってはPMF組織委員会の協力と支援を得たが、本報告書は宮部個人の責任でまとめたものである。したがって、以下の分析結果の解釈や結果に基づく考察は宮部のもので、PMF組織委員会のものではない。このアンケート調査の結果から、長くこの教育音楽祭を存続させていくために、今何をすべきかを考え、実行していく際に参考とすべき多くの示唆が得られたと考えている。

毎年のことであるが、演奏会の際に調査へのご協力をいただいた多くの方々に、心から御礼を申し上げる次第である。

2. 調査実施及び回収状況

2-1. 調査内容と調査票

札幌公演の調査では2014年以來の調査との時系列比較を可能とする質問項目を中心とした。また、道内公演、道外公演での調査では、各会場の事情に合わせて一部の設問を設けている。本報告書の付属資料として、使用した調査票と設問ごとの単純集計結果を掲載している。

感染対策の観点から、調査票は各会場入り口に設置したテーブル上に演奏会プログラムとともに配置し、来場者が自ら手に取る形とした。回収は会場内に設置した回収箱で実施した。

なお、2022年も本調査と同時に経済性調査を実施したが、本報告書では来場者調査の結果のみ報告する。

2-2. 調査実施コンサートと回収状況

2022年の調査対象コンサートと回収状況は以下に示す通りである。

日程	開演	公演名	会場	来場者数	回収数	回収率
7月16日 (土)	15:00	PMF2022 オープニング・コンサート	札幌コンサートホールKitara	1,448	558	38.5%
7月24日 (日)	13:30	PMFアンサンブル演奏会*	札幌市苗穂・本町地区センター	158	88	55.7%
7月30日 (土)	13:00	ピクニックコンサート**	札幌芸術の森・野外ステージ	1,800	262	14.6%
7月31日 (日)	15:30	PMF GALAコンサート	札幌コンサートホールKitara	1,765	701	39.7%
				5,171	1,609	31.1%
7月17日 (日)	18:30	PMFオーケストラ苫小牧公演	苫小牧市民会館	601	246	40.9%
7月21日 (木)	18:00	PMFアンサンブル江別公演	江別市民文化ホール	364	97	26.6%
7月25日 (月)	18:30	PMFアンサンブル函館公演	函館市芸術ホール	537	218	40.6%
				1,502	561	37.4%
8月2日 (火)	19:00	PMFオーケストラ東京公演	サントリーホール	1,270	154	12.1%
				7,943	2,324	29.3%

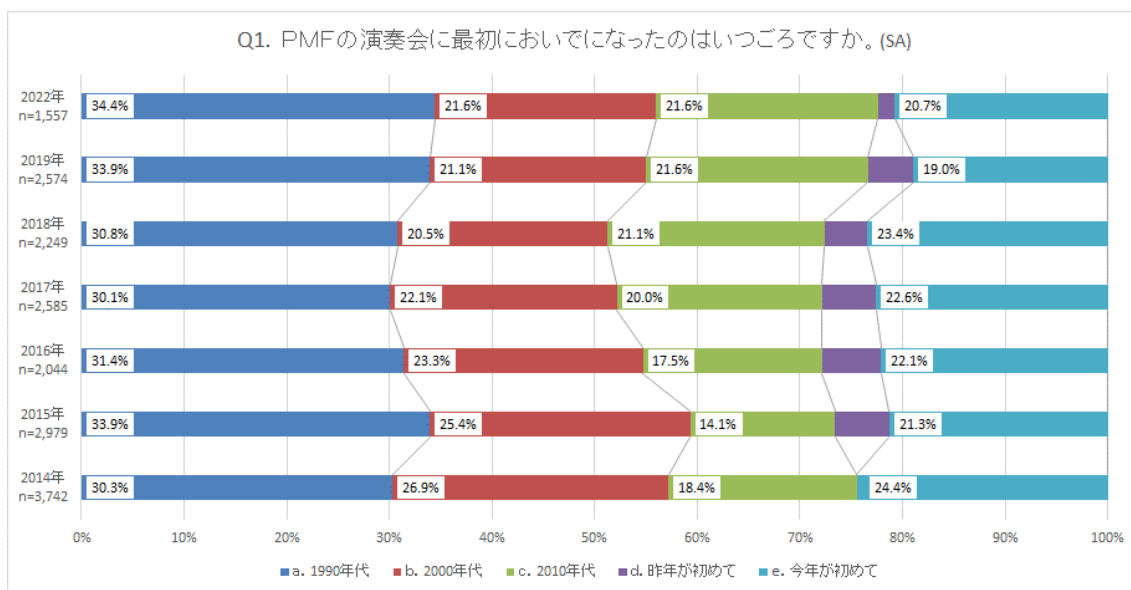
* 第19回 地域ふれあいコンサート

** ピクニックコンサート<レナード・バーンスタイン・メモリアル・コンサート>

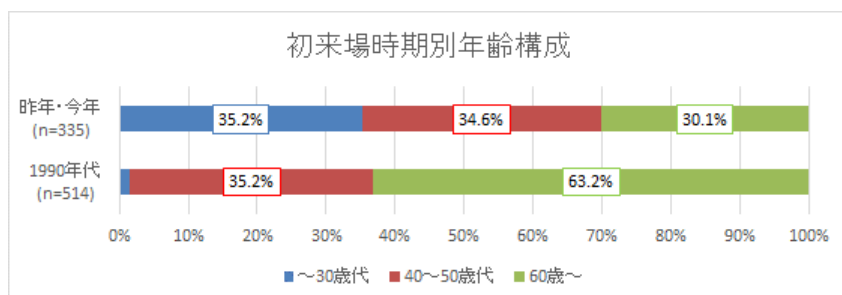
3. 集計結果分析その1 札幌調査結果の時系列比較¹

3-1. 初来場時期

2014年以來毎回継続して尋ねている設問である。全体の傾向としては大きな変化は認められないが、1990年代に初めて来場とする回答が34%とこれまでに比べて多かった。これは長くPMFを知り、演奏会を楽しみにする人たちが、2019年以來3年ぶりの本格的な開催となった2022年に多く来場されたためと考えたい。

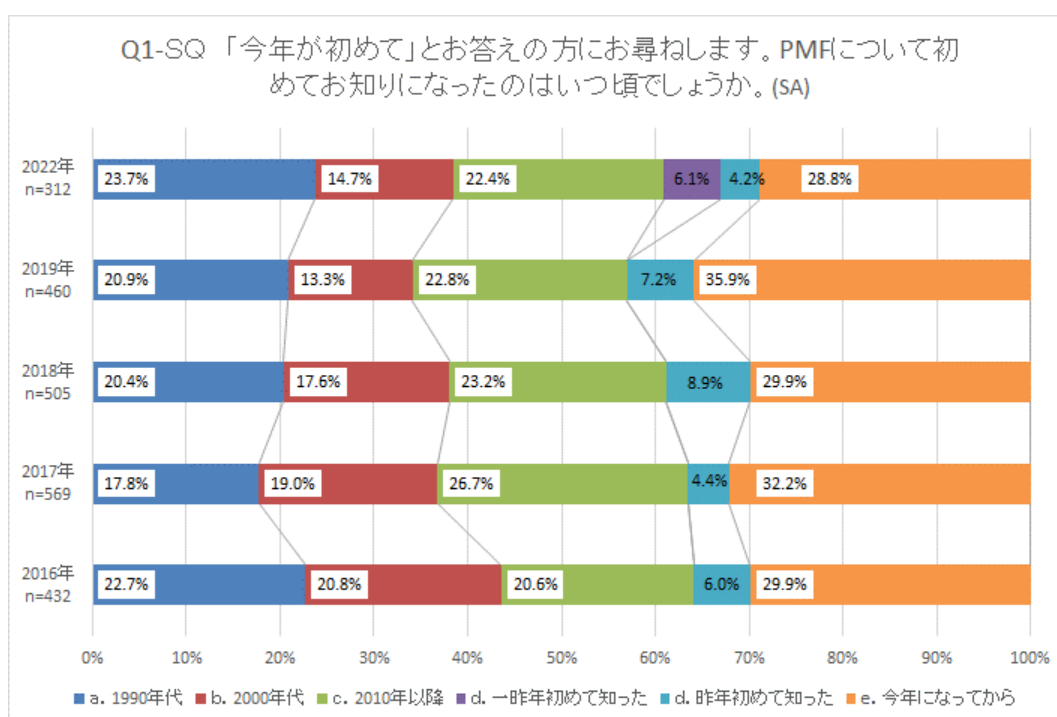


一方、今年あるいは昨年から初めて来場とする回答は22%であり、これまでと同様に初来場者を迎え入れることが出来ている。この方たちが今後継続して来場されることが、PMFの存続に大きな意味を持つことになる。初来場時期別年齢構成を見ると、2022年の初来場者が今後継続して来場されれば来場者の世代交代が着実に進んでいくと想定でき、PMFを成立させる重要な要素である演奏会の聴衆の確保が見通せる。



¹ 図表中の(SA)は Single Answer の略で選択肢から一つを選択するように求めた設問、(MA)は Multiple Answer の略で、該当する選択肢をすべて選択するように求めた設問。

Q1で「今年が初めて」と回答した回答者に、何時からPMFを知っているかを尋ねている(Q1-SQ)。初来場者のPMF認知の状況では、2019年は「今年になってから」PMFを知り演奏会に来場というグループが36%を占めていた。2019年調査報告ではこれを30周年記念が発信された効果と推測したが、2022年の結果では2018年までの傾向に近い結果となった。2014年の第1回調査から、初来場者が必ずしもPMFを認知していなかったわけではなく、PMFを認識しつつ何らかの理由で演奏会への来場が叶わなかったことを確認してきている。この方たちの関心を引き付け続け、いずれは実際に演奏会に足を運んでいただくための工夫が重要であろう。その意味からインターネットを活用した演奏会のライブ配信や、録音録画の配信は評価される取り組みである。

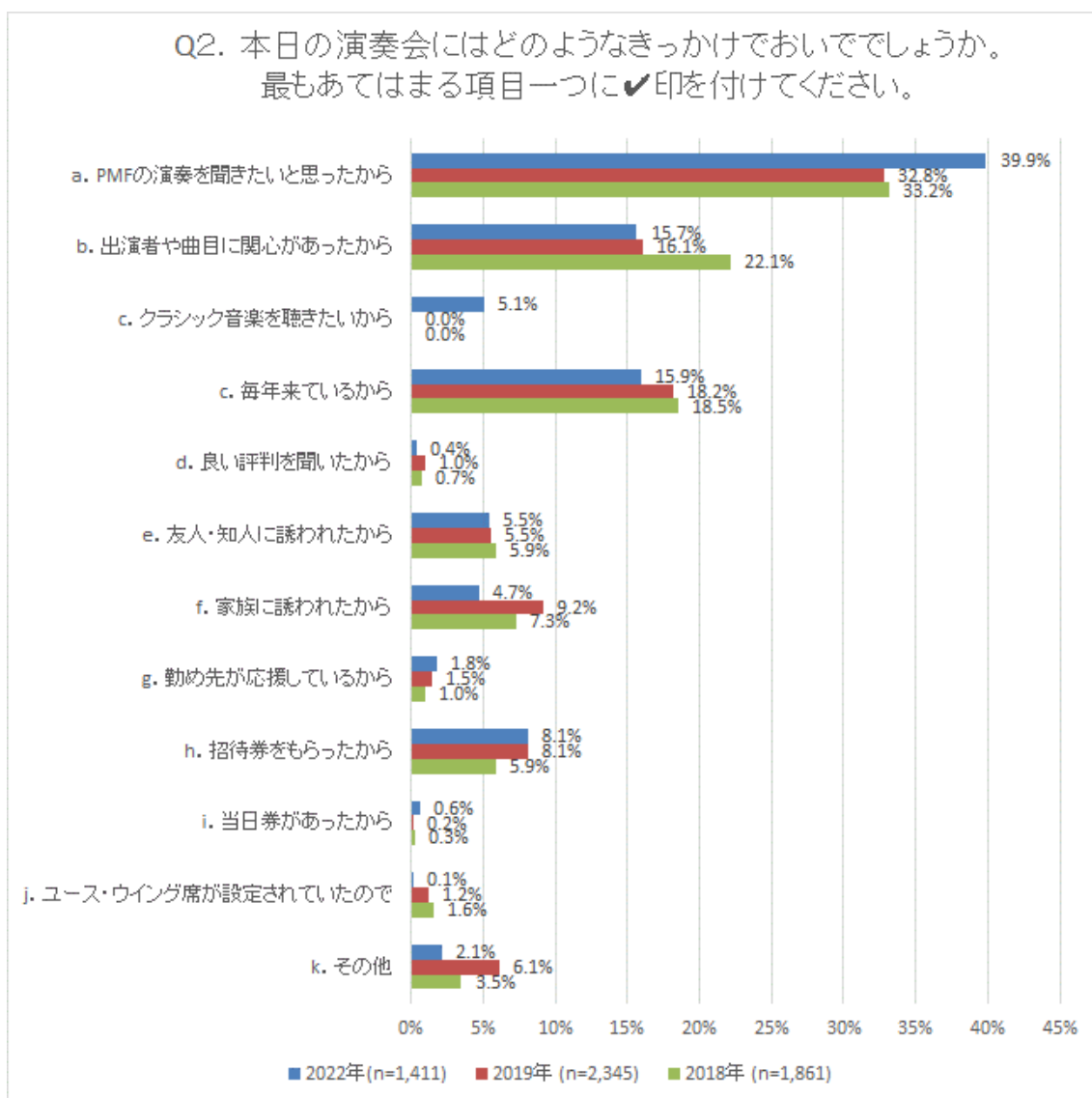


3-2. 演奏会来場のきっかけ

この設問は提示された選択肢から一つを選択することを求めた設問なので、最も当てはまる選択肢が回答されている。

過去2回の調査結果と比較して顕著な差は、「PMFの演奏を聞きたい」が40%と高い比率となった点である。3年ぶりの本格的なPMFに対する期待感を見ることが出来る。

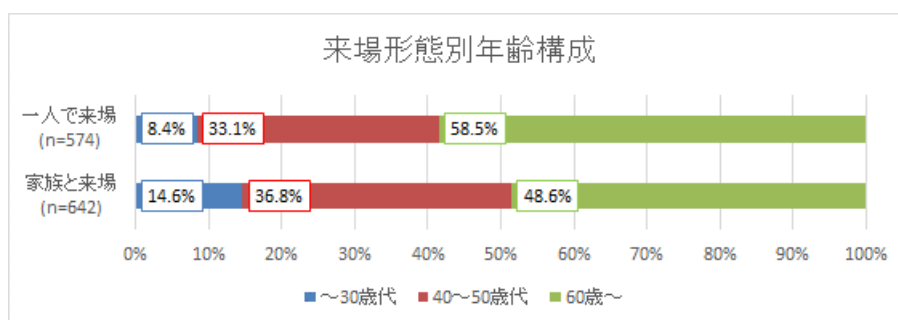
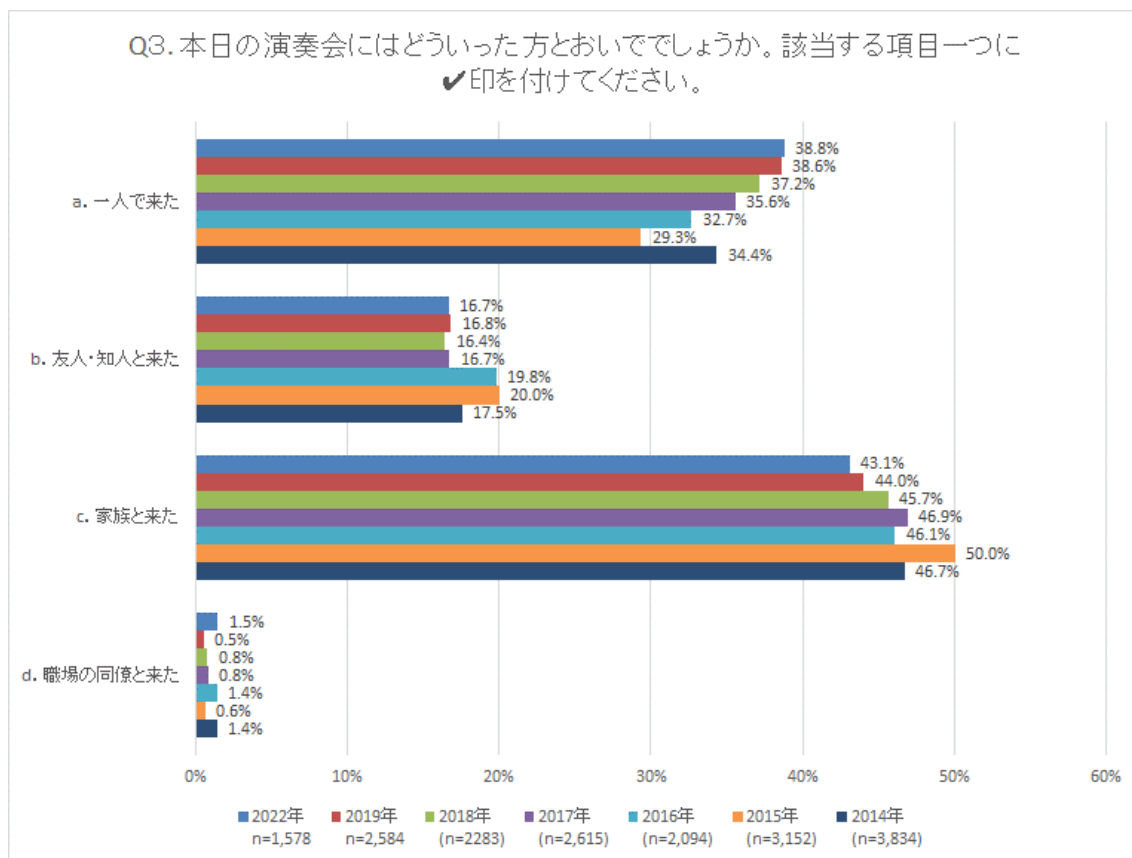
次節のQ3に関係するが、「家族に誘われた」の比率が2019年の9%から5%に減少し、「友人・知人に誘われた」も2018年から若干の減少となった。



3-3. 来場形態

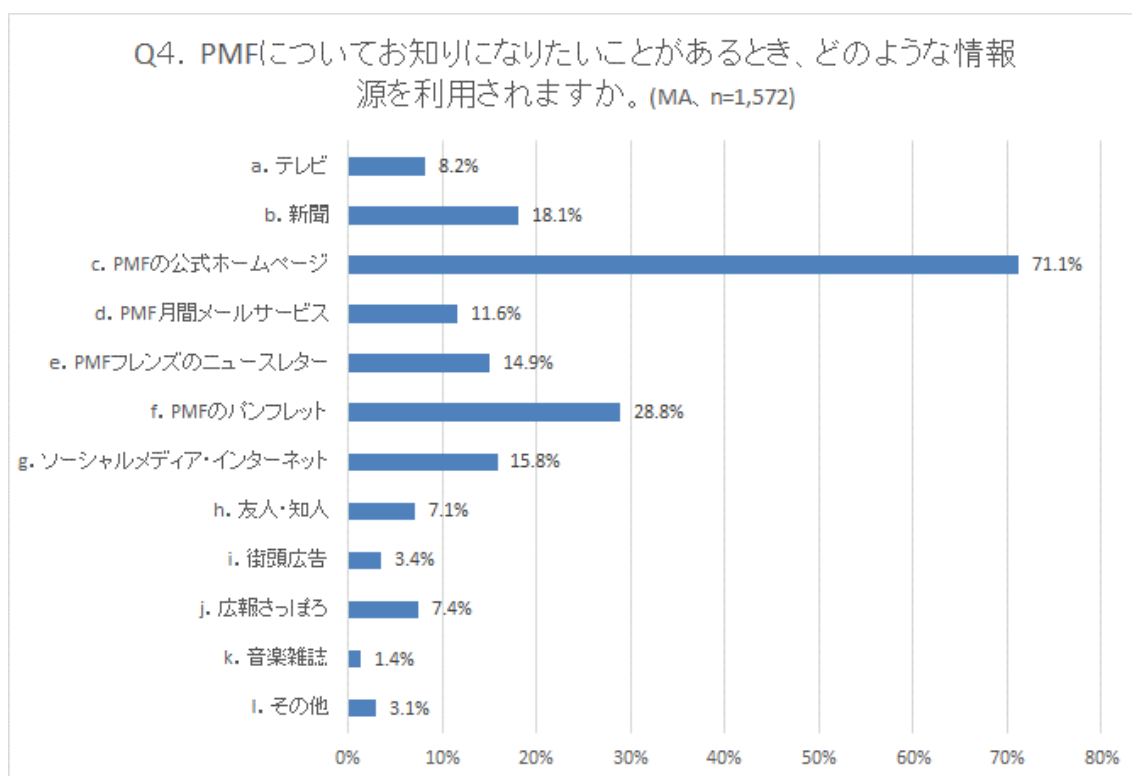
演奏会来場について尋ねた設問である。顕著な傾向は「一人で来場」が2015年以降増加傾向を示し、それに対して「家族と来場」が減少している点である。Q2の回答で「家族に誘われ」での来場の比率が減少していたが、時系列の回答状況は必ずしも減少傾向ではなく、Q3の結果との整合性が明確ではない。この点はもう少し観察を続ける必要があると考える。この点を重視するのは、この結果の一つの解釈として、演奏会への来場が受動的なものからより能動的な行動に変化している可能性を示唆すると考えられるからである。PMFへの共感と支持がより強くなる可能性を内包するとの解釈も考える。「一人で来場」はやや高齢層に偏ってはいるが、全世代に広がっていることが確認できることから今後の継続的な演奏会来場の可能性を示唆するものとの解釈も有り得る。

一方で、「家族と来た」から「一人で来た」へのシフトは来場者数を抑制する影響も持ち、さらに年齢構成が高齢層にシフトする傾向もある。この結果は、より多くの方に来場していただき演奏を聴いていただくこと、より積極的にPMFに聴衆として関わっていただくこと、といった様々な視点からPMFを考えるきっかけを与えてくれる。



3-4. 情報入手経路

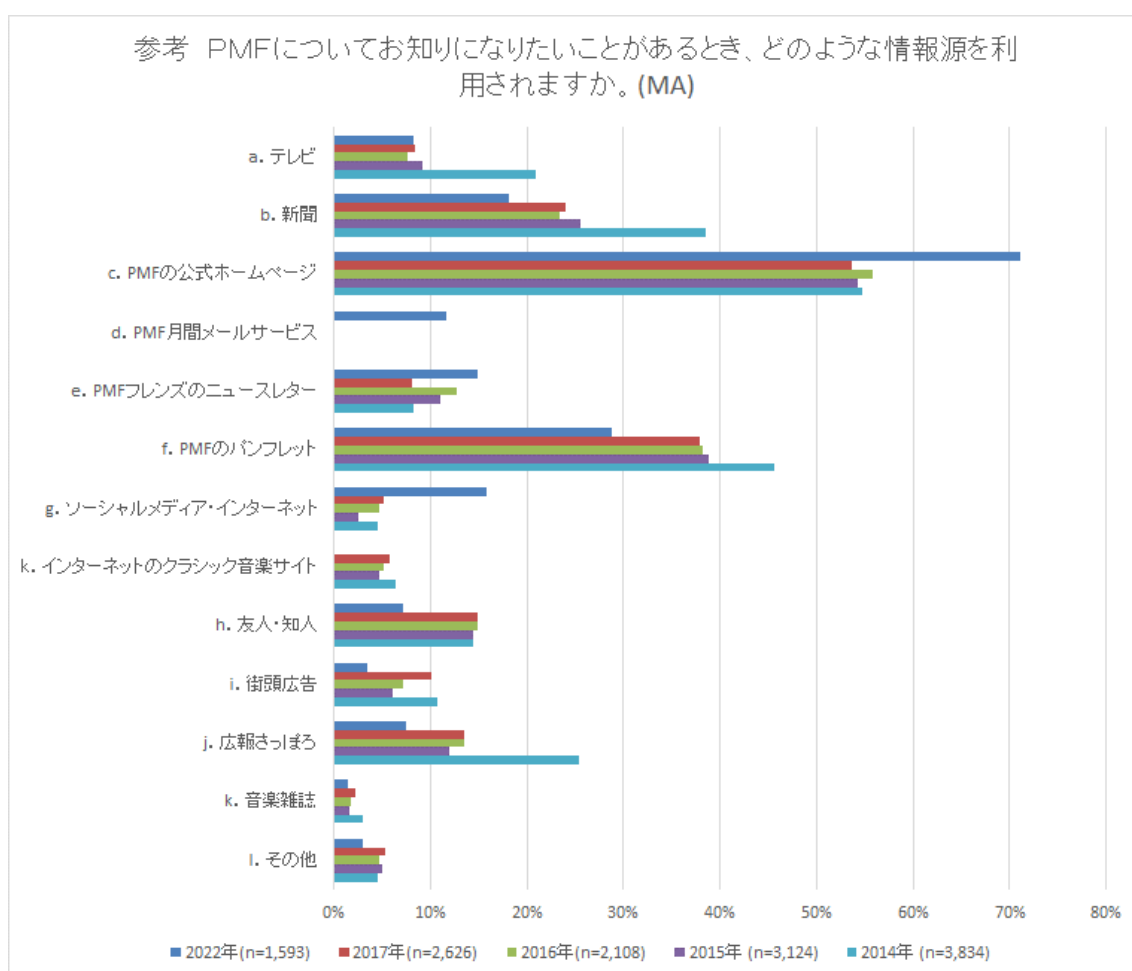
PMFに関する何らかの情報を入手する際に利用する媒体を尋ねた。回答者の71%がPMFの公式インターネットサイトを情報源として選択している。次に多かったのはPMFのパンフレットの29%で、インターネットサイトへの依存は圧倒的である。



この設問は複数回答を求めているが、一項目ないし二項目の選択の回答が1,173件と有効回答の75%を占めていた。回答内容は以下の通りで、公式インターネットサイトによる情報提供が極めて重要であることが示されている。

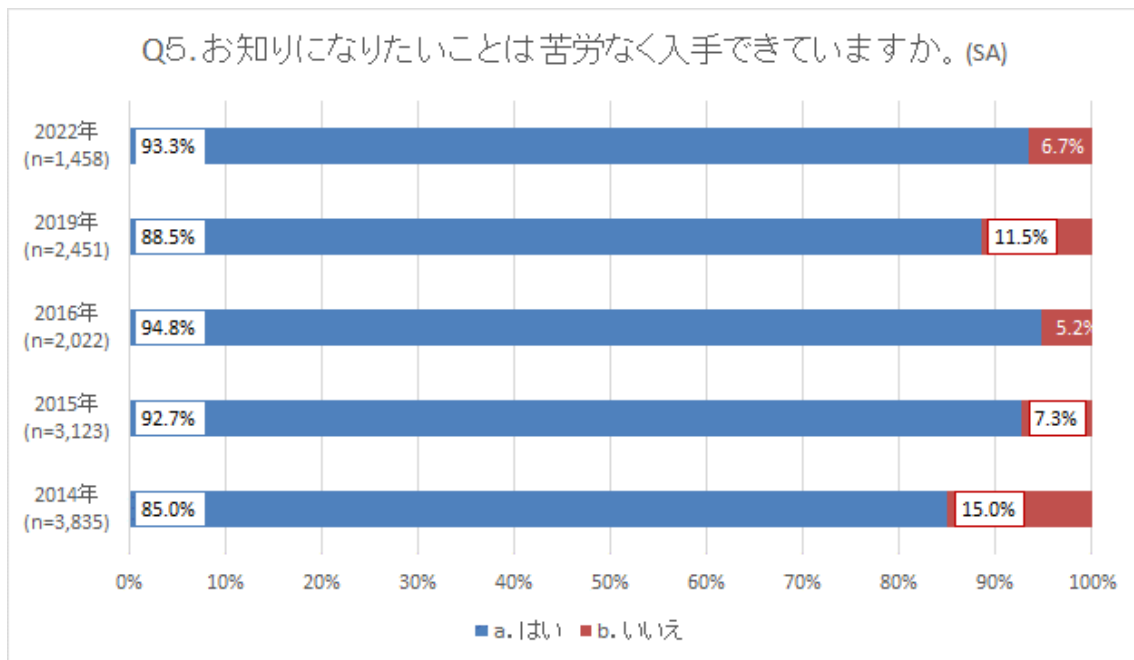
	1選択のみ	2選択
a. テレビ	1.2%	6.5%
b. 新聞	5.7%	21.9%
c. PMFの公式ホームページ	62.9%	73.5%
d. PMF月間メールサービス	1.6%	7.2%
e. PMFフレンズのニュースレター	2.6%	13.5%
f. PMFのパンフレット	9.3%	34.7%
g. ソーシャルメディア・インターネット	7.1%	20.9%
h. 友人・知人	3.9%	7.2%
i. 街頭広告	1.2%	2.8%
j. 広報さっまる	0.9%	8.1%
k. 音楽雑誌	0.3%	1.2%
l. その他	3.4%	2.6%
n=	743	430

情報入手経路に関する設問は 2014 年の第 1 回調査以降繰り返しているが、2022 年は選択肢の内容を変更したため、直接の比較はできない。以下、参考として時系列データを掲載する。2022 年に公式インターネットサイトへの依存度が大きく上昇しているが、今後この傾向がどのように推移するか、注視していく必要があるだろう。



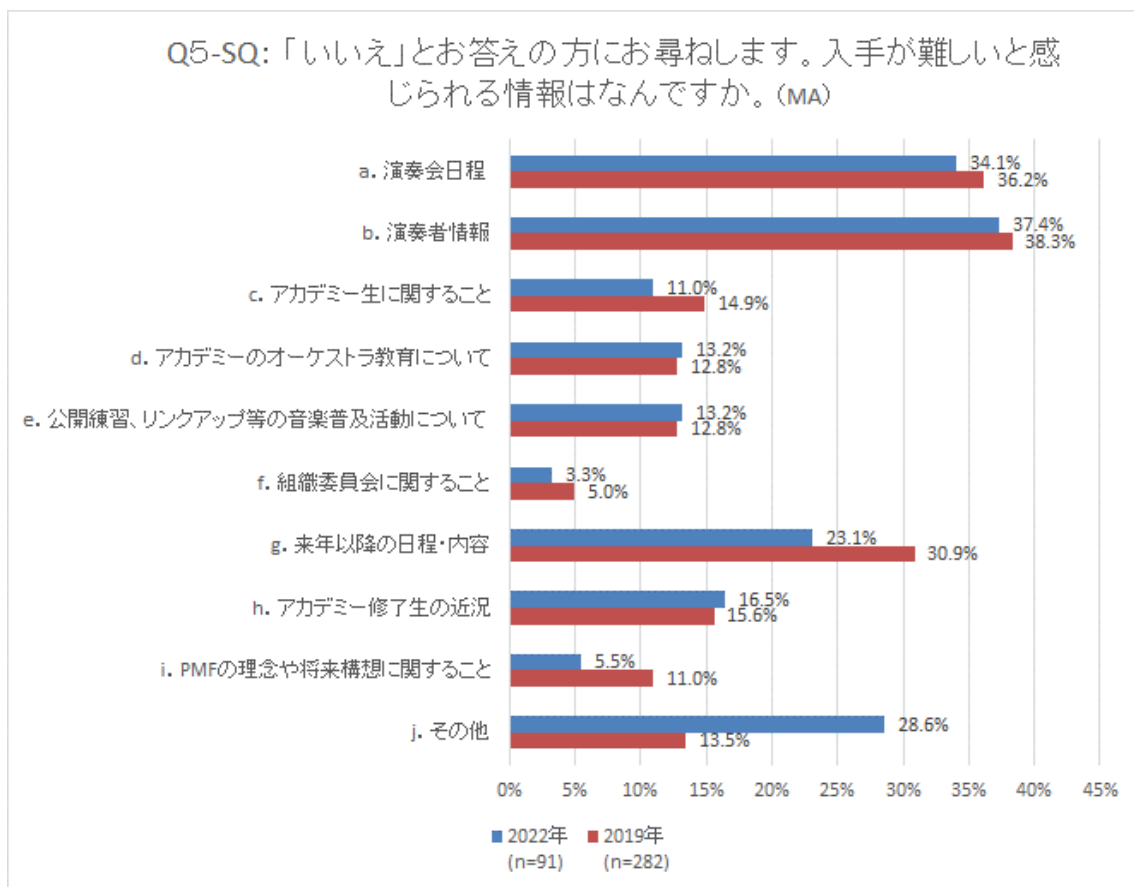
3-5. 情報入手の容易度

前回調査である 2019 年の結果と比較して、入手に困難を感じる情報があるとする回答は、12%から 7%に減少している。この結果は 2015 年、16 年の結果に近い。2014 年および 2019 年の結果では「いいえ」が 10%を超えていた。2019 年は PMF 第 30 回、2014 年は第 25 回のアニバーサリー・イヤーであったことを勘案すると、平年と比較して多彩なプログラムが展開されたことが、このような結果につながったのではないかと解釈できる。2022 年はコロナ禍による中止を経ての開催とは言え、平年並み開催であったことから、2015 年、16 年に近い結果となったと考えられる。



入手が困難と感じた情報として、演奏会日程と演奏者情報と来年以降の日程・内容が指摘されているが、いずれも2019年と比較して比率が低下している。来年以降の日程・内容も7%ポイントちかく低下している。これらを含めて全体として比率が低下している傾向があり、その背景として情報入手経路が公式インターネットサイトに集中するようになっていることが考えられる。ただし、今回の調査では情報入手が困難とした回答のサンプル数は91と少なく、判断は慎重でなければならない。その他が15%ポイントと大幅に増加している点も含めて、今後の推移を注意して見ていく必要がある。

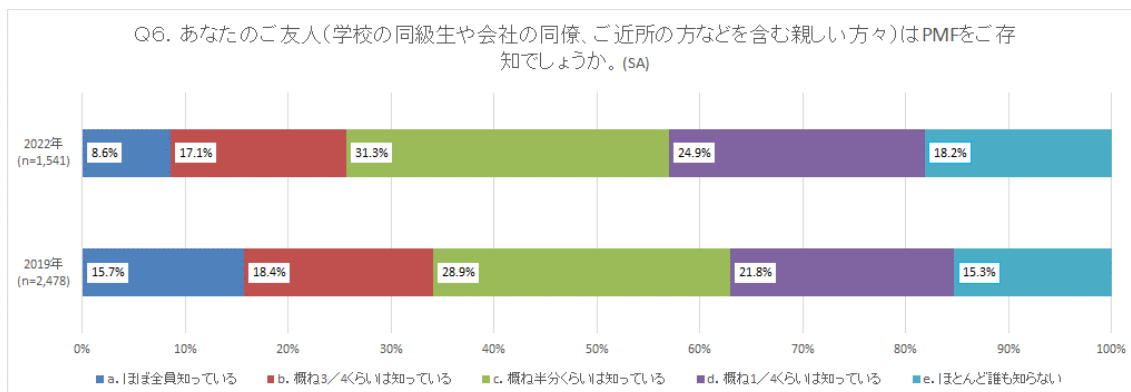
なお、昨年の報告書の繰り返しになるが、演奏会日程、演奏者情報について、知りたいと思ったときにストレスなしに入手できないと入手困難と感じられてしまうという点を再度指摘しておきたい。必ずしも情報提供の不備を意味しないが、きめ細かい情報提供に向けての改善努力が求められていることの証左である。



3-6. PMF 認知度

2019年の調査で初めて設けた設問で、今回も再度確認した。回答者周辺でのPMFの認知度合いの認識を尋ねる形で一般的な認知度への接近を試みる設問である。“ご友人”として質問票ではカッコ書きで“学校の同級生や会社の同僚、ご近所の方などを含む親しい方々”とした。

結果は以下のとおりで、2019年と比較すると認知度が低下する方向にシフトしている。これを、ほぼ全員 = 100%、3 / 4 = 75%、概ね半分 = 50%、1 / 4 = 25%、ほとんど誰も知らない = 0%として加重平均で見ると、2019年の49.4%に対して、2022年は43.3%となった。札幌市が実施している文化芸術意識調査によると、PMFを知っているとの回答は、2017年度59.3%、2018年度53.3%で、2021年度51.6%と認知度がやや低下する傾向で、来場者自身は一般的な認知度をやや控えめに見ているようだが、ほぼ札幌市の調査結果と整合的である。いずれにしても認知度については注意深く見ていく必要がある。



3-7. 客演アーティスト

2022年のPMF来場者調査ではQ7として「PMFには毎年、多彩な客演アーティストが来演し、PMFオーケストラとの共演をお届けしています。あなたが演奏を聴きたいと思われるアーティストがいましたら教えてください」という自由記入形式の設問を尋ねた。この設問は札幌演奏会と苫小牧演奏会向けの調査票に含めた。以下の整理は札幌と苫小牧調査の結果を合わせた整理である。

来場者調査の有効回答数は、札幌演奏会 1,593、苫小牧演奏会 243、計 1,836 件で、このうち 683 件に Q7 への回答が記入されていた。回答率は 37%で、1/3 を超える回答者が何らかの要望・提案を持っていた。

手書きの記入であることから分析用にデータ入力する際に誤読や入力間違いの可能性があるため、演奏家氏名の確認を行いつつ一部推測により集計しているものがある。氏名と演奏楽器はインターネット検索で確認しつつ整理したので、実際に記入された氏名と細部で異なるものがある。また、演奏家を特定できないケースも少数であるが存在する。

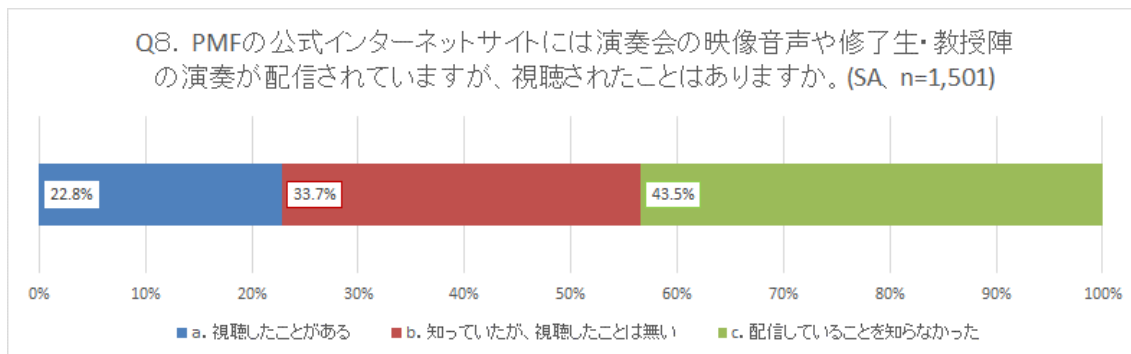
683 人の回答者から計 294 件の演奏家の名を記した具体的な要望・提案があった。回答者のうち 108 人は具体的な要望ではなく、「ショパンコンクール1位のカナダ人ピアニスト」、「生きのいい若手」、「日本人のチェリスト」、「若手の有望株」といった記入であった。また、現状で満足、お任せする、特になし、

といった記入も 25 件ほどあった。表に特に要望・提案が多かった演奏家を列挙する。アカデミー生の教育的側面と聴衆の関心とのバランスを如何に取るかは PMF が向き合わなければならないチャレンジであるが、同時にこのリストはプロの演奏家として生きていくアカデミー生にとっても参考になる点もあると考える。

楽器/指揮	氏名	要望・提案数
ピアノ	反田恭平	106
ヴァイオリン	五嶋みどり	33
ピアノ	辻井伸行	33
ピアノ	小曽根真	24
指揮	グスターボ・ドゥダメル	23
ピアノ	藤田真央	22
チェロ	宮田大	21
ピアノ	角野隼人	21
ピアノ	マルタ・アルゲリッチ	20
指揮	佐渡裕	20

3-8. 公式サイトによる配信の視聴経験

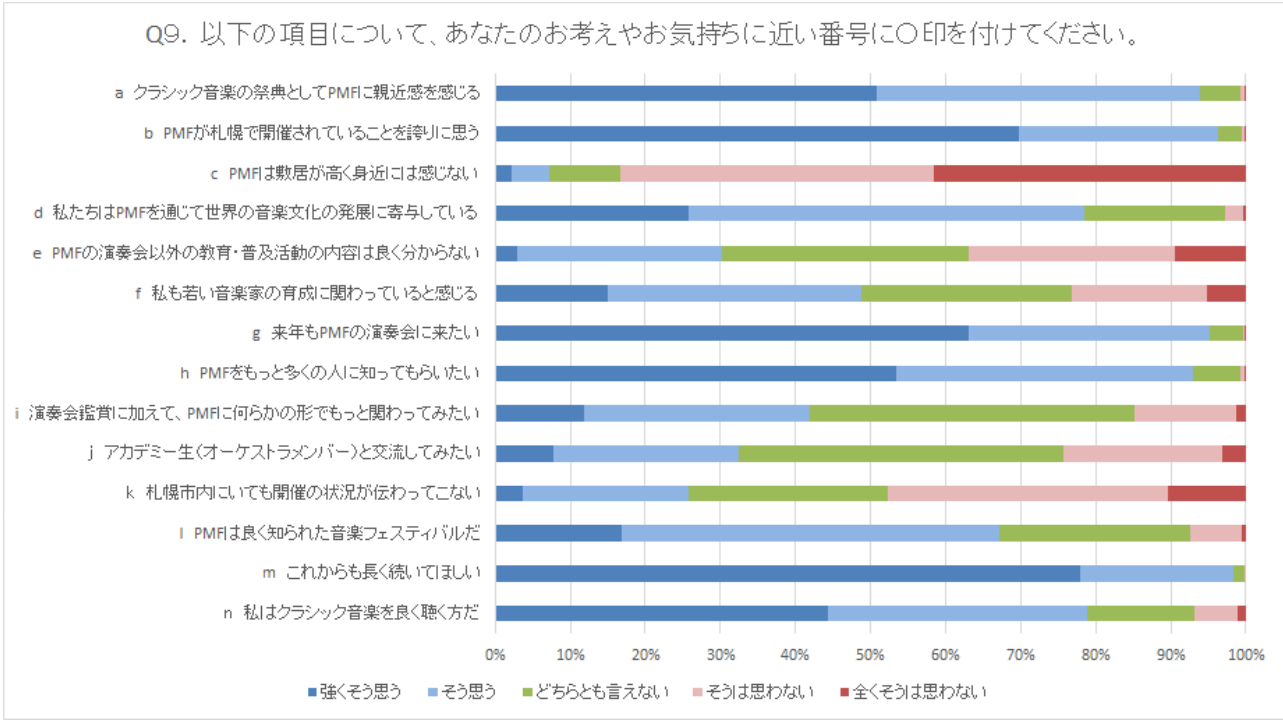
公式サイト上で展開されている修了生・教授陣の演奏の配信や、演奏会の配信の視聴経験を確認する設問である。回答者の半数を超える 56%が配信を認識していた。



3-9. PMF に関する意識

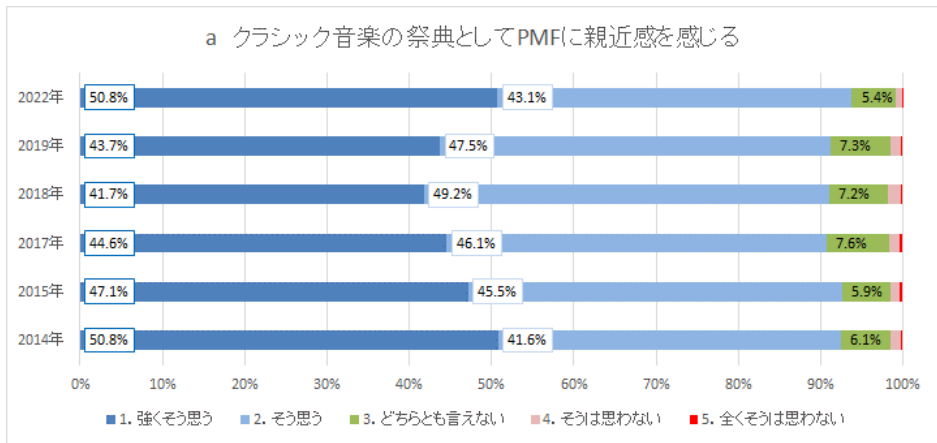
2014年の調査開始以来、2016年を除いて毎回、設問項目を取捨選択しながらPMFに関する意識調査を継続してきた。2022年調査では、概ねこれまでの結果と同様、「強くそう思う」、「そう思う」を合わせた肯定的回答から、PMFに対する強い支持を確認できる。なお、2015年までの調査では5件法²の選択肢として、「全くそう思う、そう思う、どちら

² 「強くそう思う」、「そう思う」、「どちらとも言えない」、「そうは思わない」、「全くそうは思わない」の5段階で、自分の意見に最も近い選択肢を選ぶように求める方法。



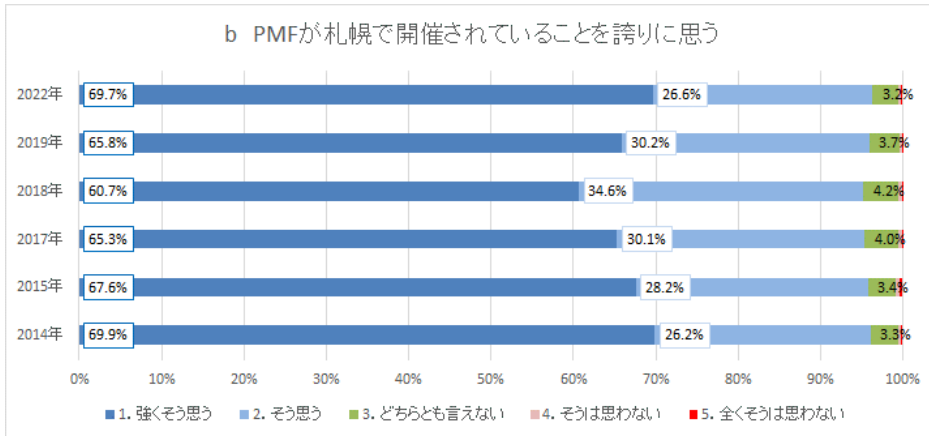
とも言えない、そう思わない、全くそう思わない」と表記していたが、2017年調査以降では「全くそう思う」を「強くそう思う」と表記している。しかし、「強くそう思う、そう思う」の肯定的意見全体では大きな変化は見られないので、来場者の中でPMFへの支持が低下しているという結論にはならないことを確認しておく。

2022年調査では「クラシック音楽をよく聴く」を含めて14項目について、5件法で意識を尋ねている。以下、設問項目ごとに過去の結果と比較しながら見ていくことにする。



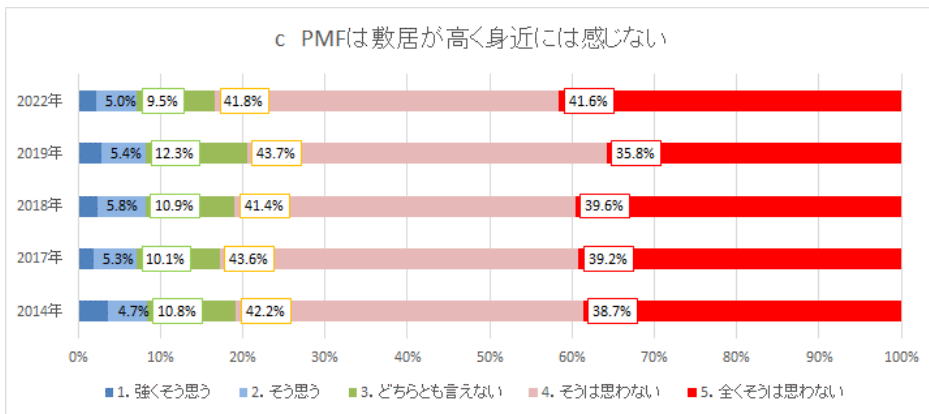
PMFに対する親近感は90%を超える回答者が感じている。2014年以降変わらずこの傾向が続いているが、

2018年以降「強くそう思う」の比率が拡大を続け、2014年調査と同等のレベルになった。このことから、PMFに対する支持は揺るぎないものとなっていると言える。



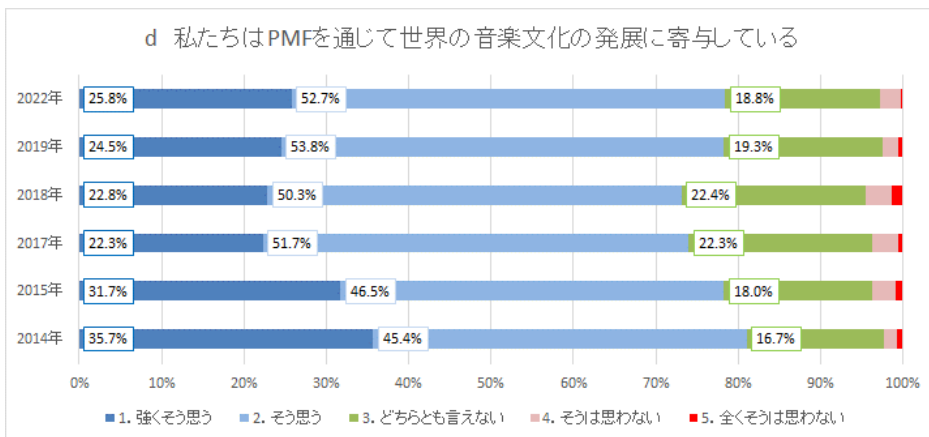
95%の回答者が札幌開催を誇りに思うとしている。否定的意見は一貫して1%に満たない水準で、2022年調査では0.5%と極めて

低い水準である。



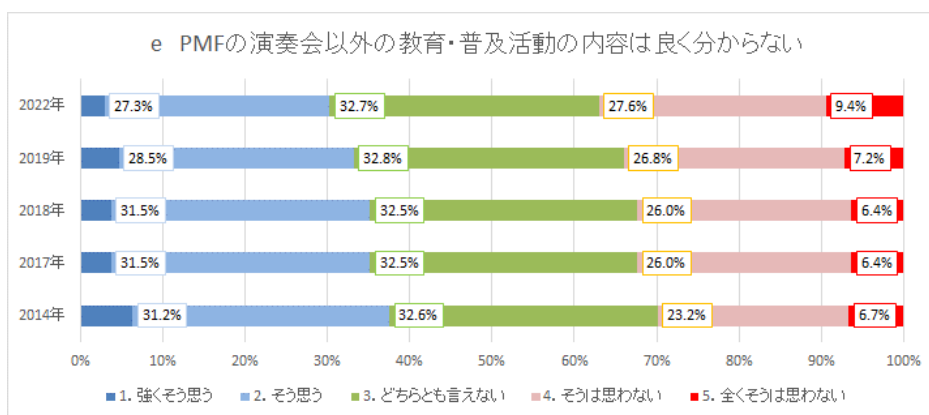
敷居が高いと感じる回答者は7%で、演奏会来場者にとって馴染みのある催しとなっている。全体の傾向は2014年以降

変わっていないが、「全くそうは思わない」が42%でこれまでの結果と比較して最も高い率となった。PMFのフェスティバルとしての側面が評価されていると言えよう。



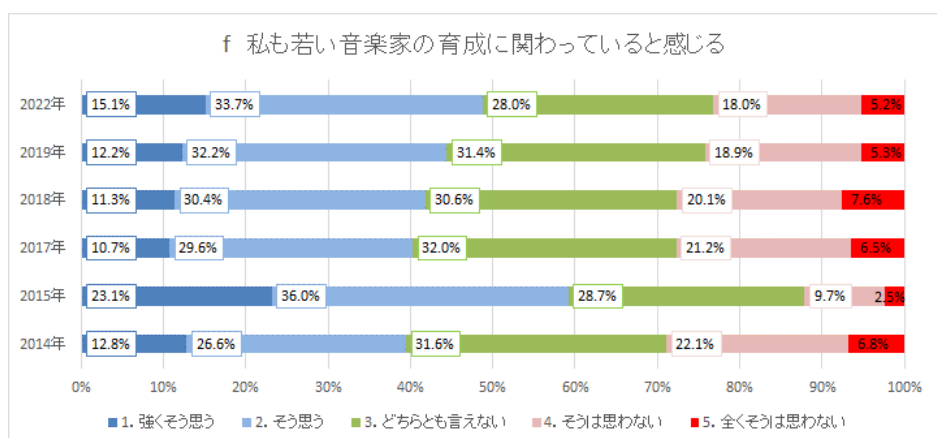
“私たち”という表現で、PMFを支持する人全体で、という意味を持たせたが、肯定的意見が2022年では78%で

2019年と同率である。2017年以降肯定的意見が漸増している。



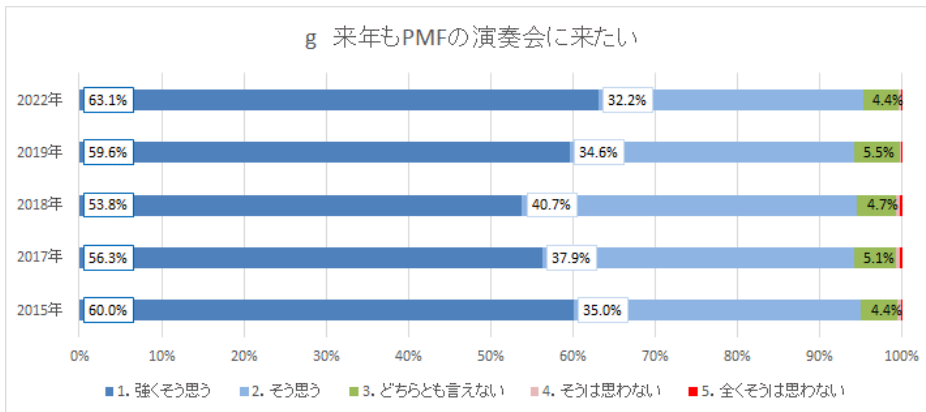
PMFは演奏会以外にも様々な活動を展開しているが、それらの活動の認知度を尋ねている。“よく分からない”と

する回答は傾向的に減少しており、2022年では30%となった。全体像の理解が進んでいると解釈できる。



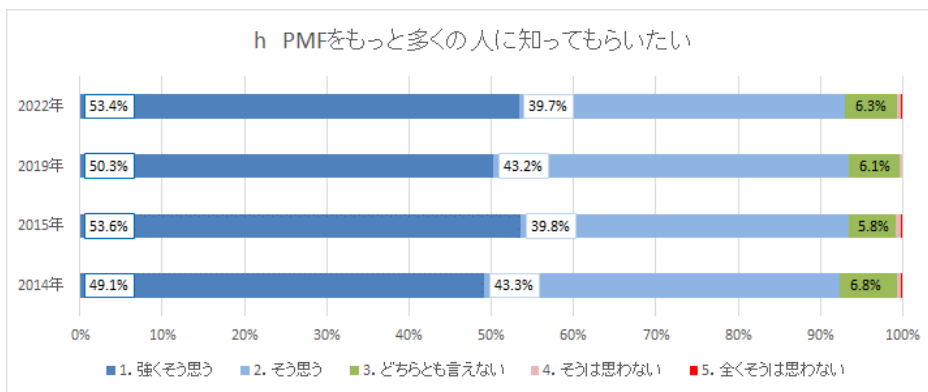
“私”自身が直接かかわっていると感じているかどうかという強いコミットメントを尋ねている。2015年を除いて肯定的意見は各年

40%強であるが、2017年以降漸増傾向にあり2022年には49%と半数に迫っている。一方、否定的意見は23%で、漸減傾向にある。世界の若手音楽家の教育というPMFのミッションが演奏会来場者の中で共有が進んでいると見て良いかどうか、今後も注視していきたい。



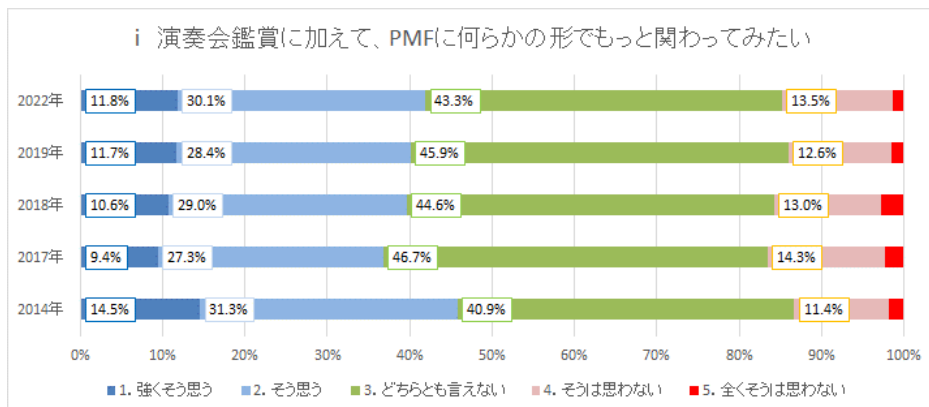
肯定的意見が95%で回答者の圧倒的多数が来年の来場を望んでいる。2018年以降、「強く思う」が拡大傾向で

2022年では63%となった。



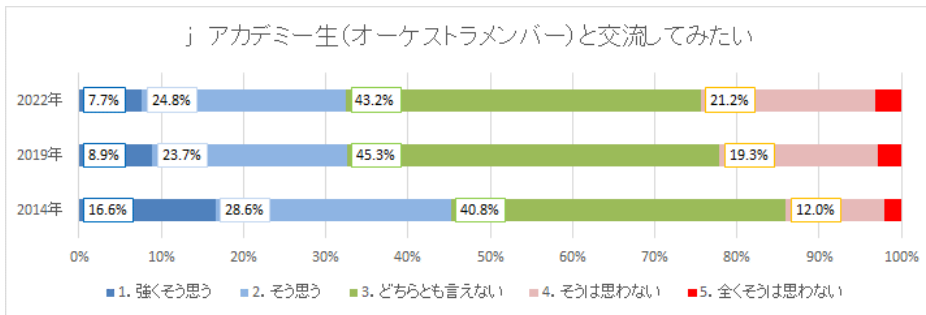
肯定的意見は93%で圧倒的多数が、より広く認識されることを望んでいる。このことは、回答者の多くがPMFは十分

に認知されていないと考えていることの表れと受け止めるべきである。



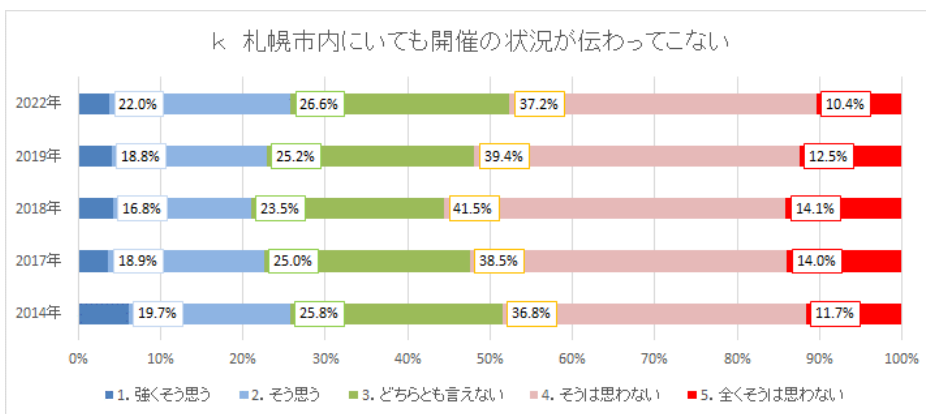
より積極的にPMFに関わりたいたする回答が42%である。この42%の人たちを無理のない形で

PMFの活動に巻き込んでいくことが継続実施を確実にする一つの方策であると考えられる。ただし、次の項目の結果と考えあわせることが必要であろう。



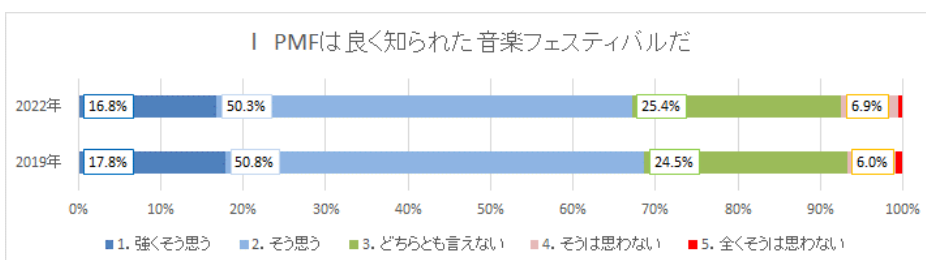
アカデミー生との交流という積極的な関りを求めるかどうかという項目で、2022年では肯定的

意見は33%である。一方、否定的意見は24%で2019年と比較しても増加している。積極的な関りから静かに見守る姿勢へ変化しているように見える。アカデミー生は期間中大変忙しいスケジュールで活動しているので、これはPMFの趣旨にも沿った姿勢と解釈できよう。



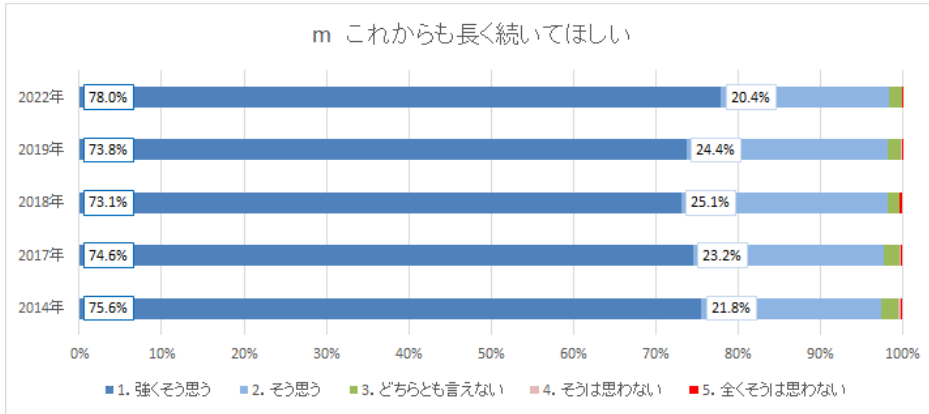
「伝わってくる」とする回答は2022年では48%で、2018年以降漸減傾向である。2018年までは「伝わってこない」

とする回答は減少傾向、「伝わってくる」とする回答が増加傾向であったのが、2019年以降この傾向に変化があったように見える。2022年が3年ぶりの本格的なPMF開催であったことは留意する必要がある。



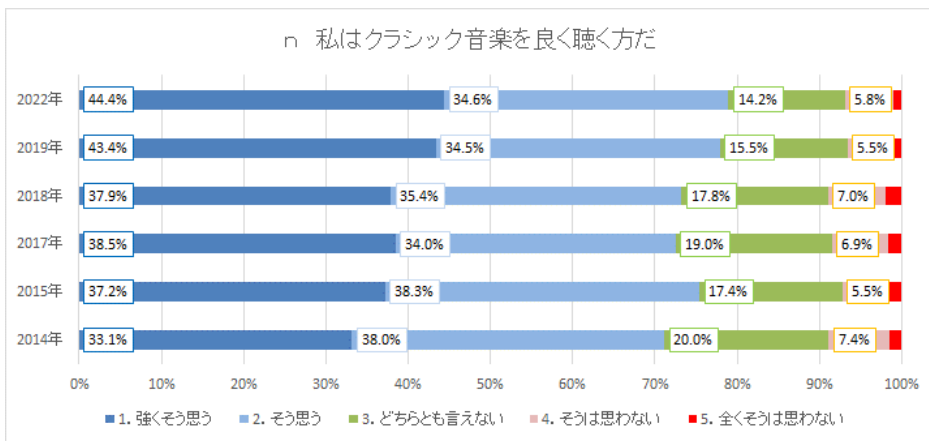
2019年に追加した項目である。よく知られていると認識している回答が67%、

知られていないとする回答は8%であった。項目hの回答状況と重ね合わせると回答者は、一定程度知られてはいるが十分ではない、PMFの活動内容を勘案すると本来享受してよいはずの認知度を得られていない、と判断していると推測できる。



2014年の第1回調査依頼、肯定的意見が圧倒的で、否定的意見は0.2%であった。演奏会来場者のPMFに対する強い

支持が継続していることを示す結果である。



自身クラシック音楽を「良く聴く」と考えるかどうかを尋ねたもので、肯定的意見が70%を超えている。2022年では79%で、クラ

シック音楽の鑑賞者と自ら認識する来場者が増えている。

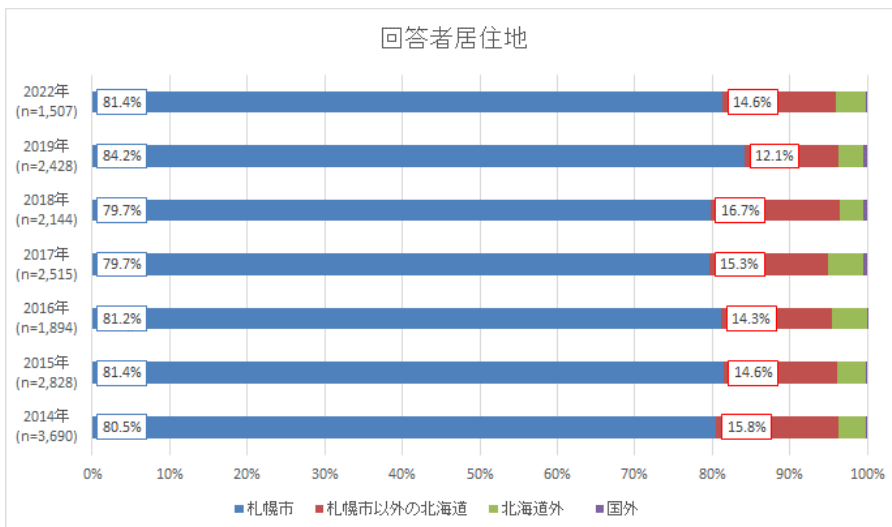
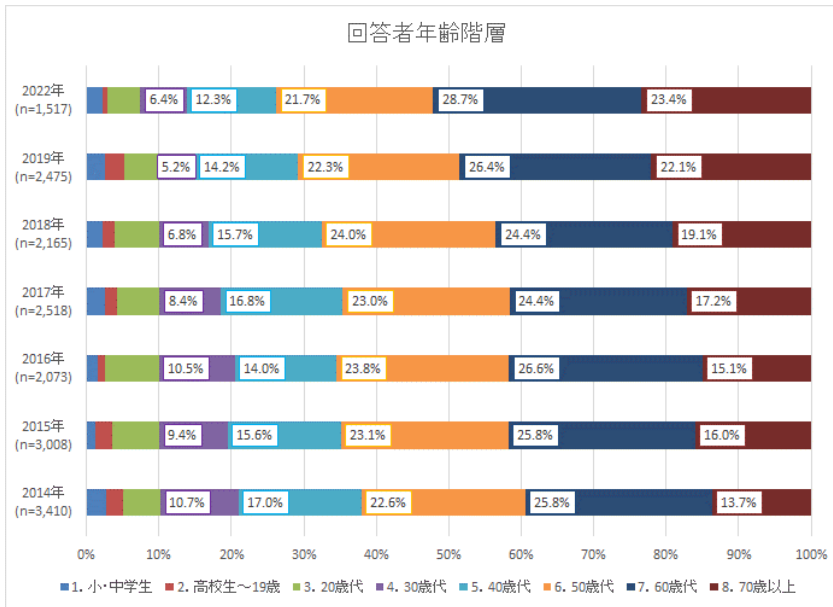
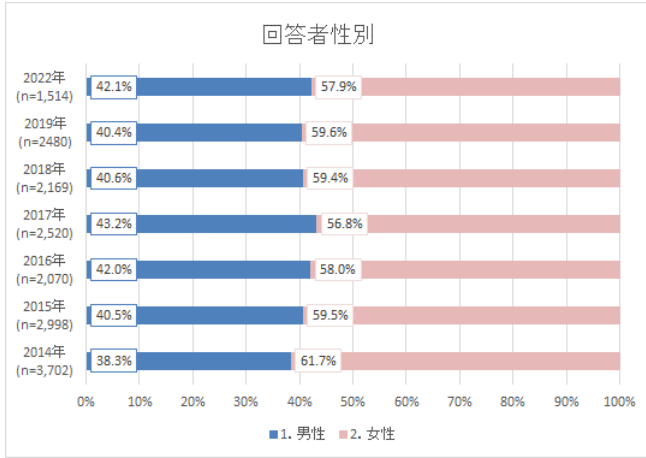
3-10. 自由記入欄

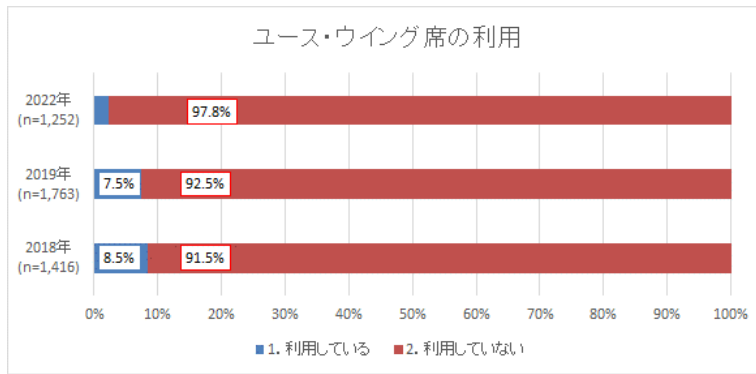
設問10「PMFに関してご意見等がありましたら、ご記入をお願いします」として自由記入欄を設けた。何らかの記入を行った回答者は402名であった。複数の内容の記入を行っているケースがあるので、以下のまとめ表の回答数の合計は回答者数を上回る。PMFの実施運営に有益となるであろう指摘、意見が多く、記入いただいた回答者に感謝する。

Q10 自由記入欄回答内容

	回答数
感謝・感動・激励	128
開催継続期待	56
札幌の資産・誇り 指摘	14
プログラム・演奏の感想	26
プログラム関係意見・要望	74
アウトリーチ	8
レクチャー	3
アカデミー生	3
ミニコンサート・小ホール・芸森	7
プログラム内容	47
開催期間	2
出演者	10
運営関係意見・要望	166
チケット販売・料金	34
グッズ販売	13
広報・普及・情報発信	43
若者の来場促進	7
公演情報提供	11
ガラ プログラム 冊子	17
支援企業・資金確保	5
ピクニックコンサート	13
メンバーとの交流・紹介・フォローアップ	8
7/29 花火休憩	7
マナー・マスク着用	10
アンケート調査	5
その他	18
その他	11
判読不能	3
回答者計	402

3-11. フェースシート





4. 集計結果分析その2 道内演奏会での調査結果

2022年には苫小牧、江別、函館における演奏会で来場者調査を実施した。時系列データは各年次での調査対象演奏会の結果をそのまま集約したもので、年次によって開催都市が異なるので比較には注意を要する。以下の整理では設問によって2019年の結果から苫小牧、江別、函館のサンプルを別途集計して比較を試みているものがある。

2019年：苫小牧、江別、函館、幕別

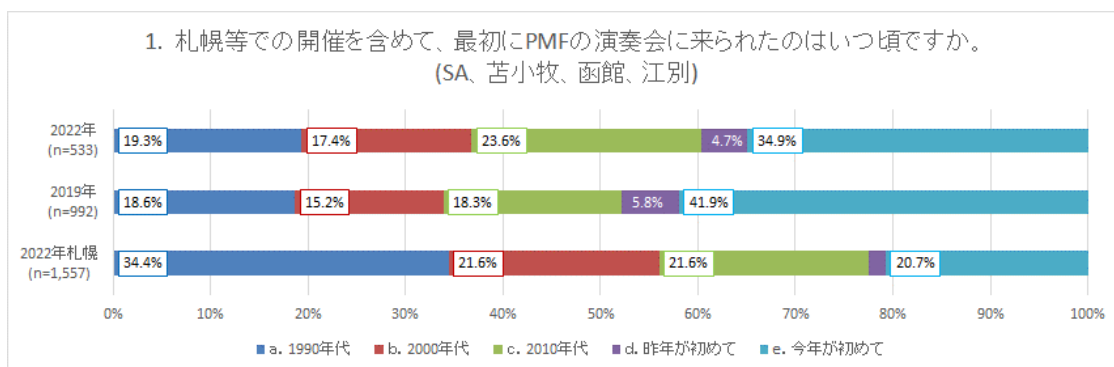
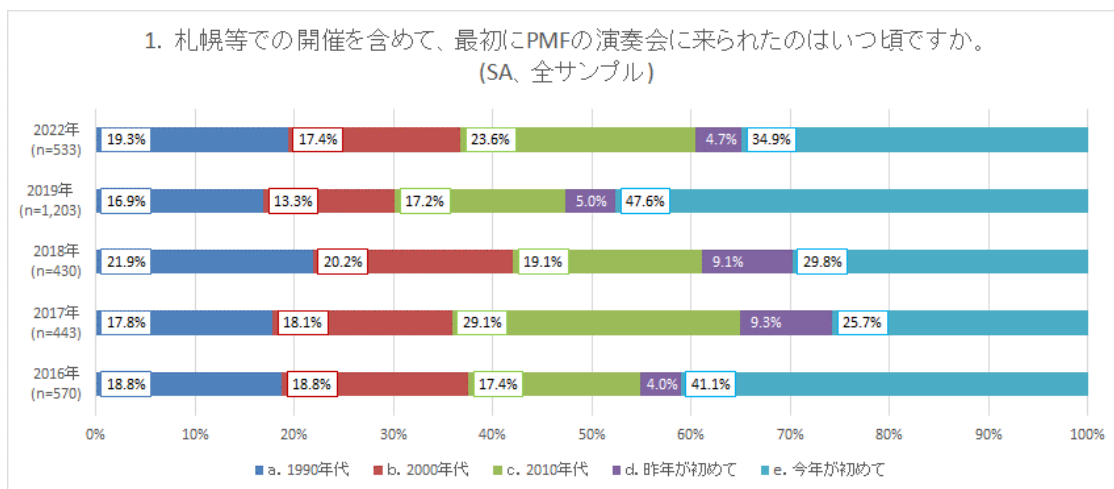
2018年：苫小牧、函館

2017年：函館、苫小牧

2016年：苫小牧、千歳、函館

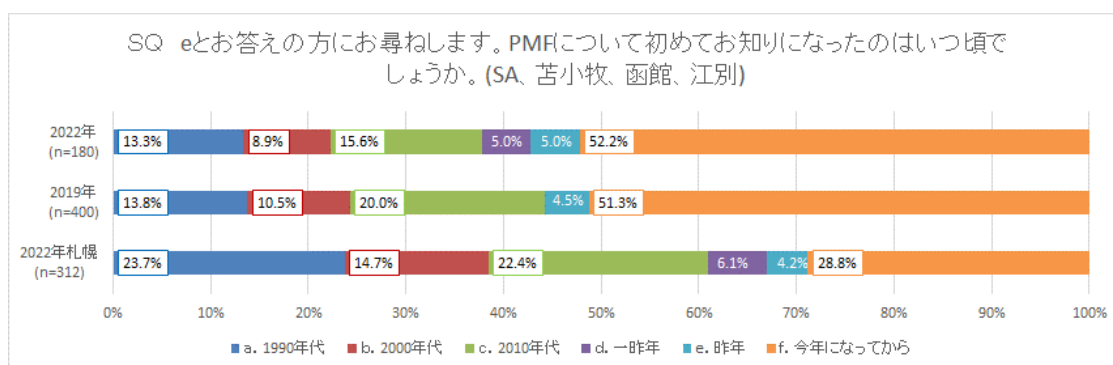
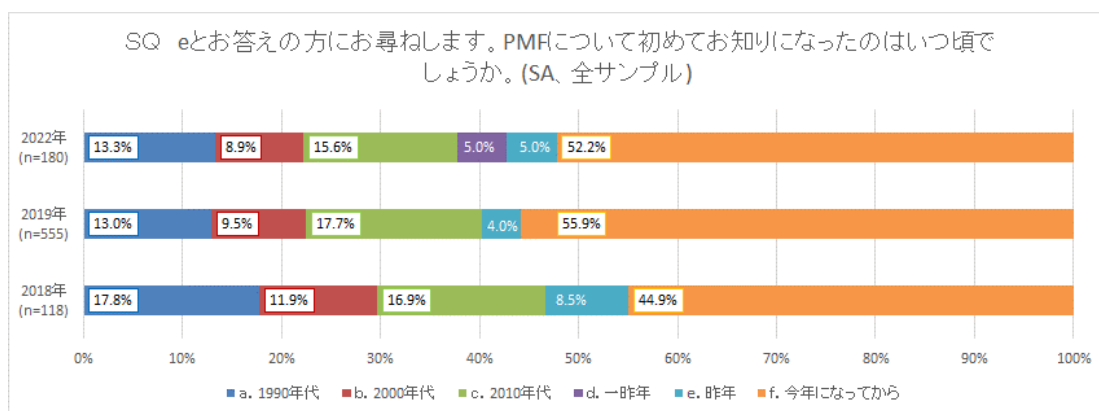
4-1. 初来場時期

「今年が初めて」と「昨年初めて」が2019年では53%と半数を超えていたが、2022年には40%で継続的な来場が構成比を上げている。3年ぶりの道内演奏会で心待ちにしていた来場者が多かったということであろう。より厳密に開催3都市（苫小牧、函館、江別）



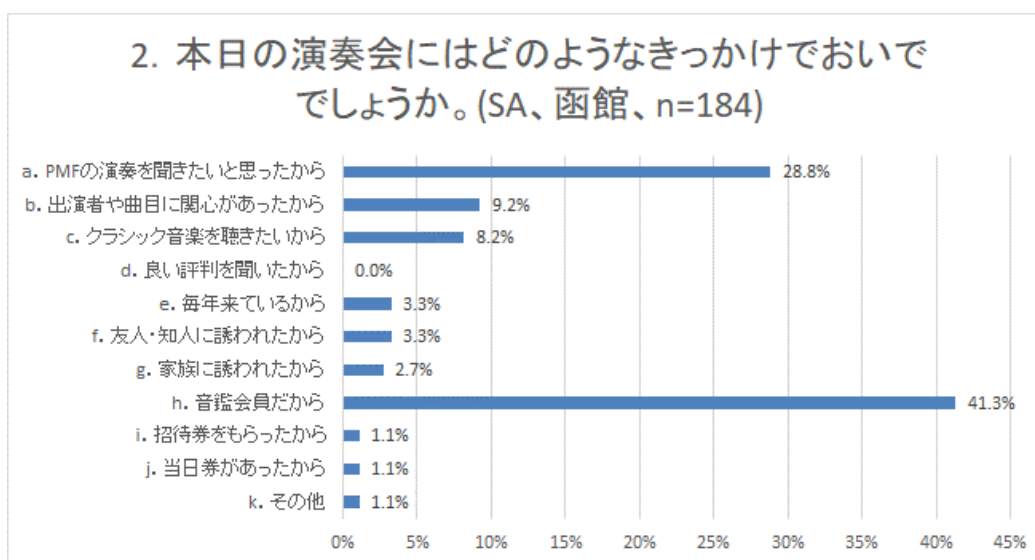
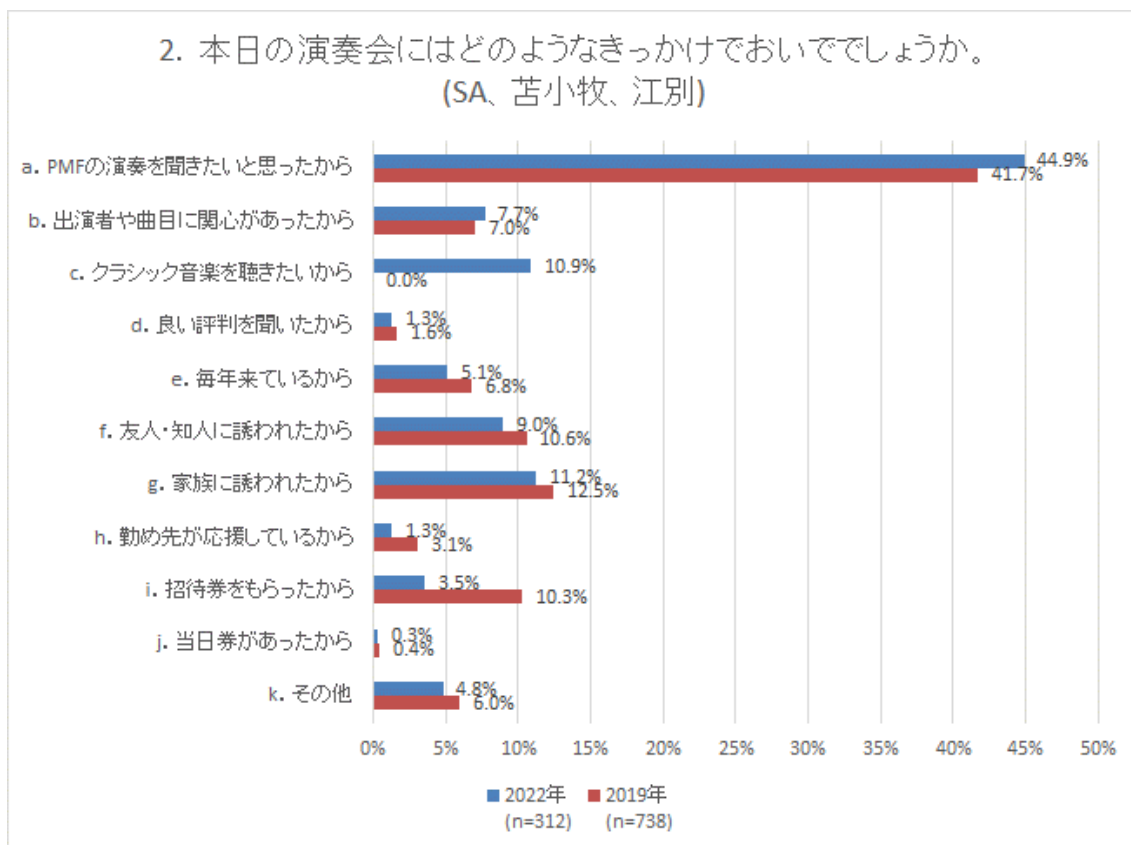
の比較では、昨年、今年初来場の比率の差は縮小するものの、傾向は変わらない。札幌演奏会の結果と比較すると、昨年、今年が初めてとする回答の比率が格段に高い。1か月近い会期中で多様な演奏会が開催される札幌ではスケジュールの都合や好みに応じて演奏会を選択できるが、道内各都市での演奏会はそのような選択肢は無いので、なかなか継続的に来場することは難しくなる。そのためにこのような結果となっていると考えられる。

このことは初来場者の PMF 認知時期を尋ねた SQ の結果にも表れていると考えられる。札幌では 1990 年代から PMF を知っていたが来場の機会がなかったとする回答者が 24%だが、道内都市では 10%ポイントほども低い。PMF に関する情報に触れる機会が少ないことが示唆されている。インターネット、ソーシャル・メディアからの情報を享受するためには、事前に何らかの知識を持っていなければ難しい。この「最初の一步」を如何に作り出すかがここで問われていることだと考えられる。



4-2. 演奏会来場のきっかけ

この設問は苫小牧、江別での調査票と函館での調査票に提示した選択肢に違いがあるので、それぞれに集計した。演奏会来場のきっかけは2019年の結果と大きく変化はない。PMFの演奏を聴くために来場が45%と半数に近い。2022年に追加した「クラシック音楽を聴きたい」という選択肢を11%の回答者が選択している。札幌交響楽団が道内各地で精

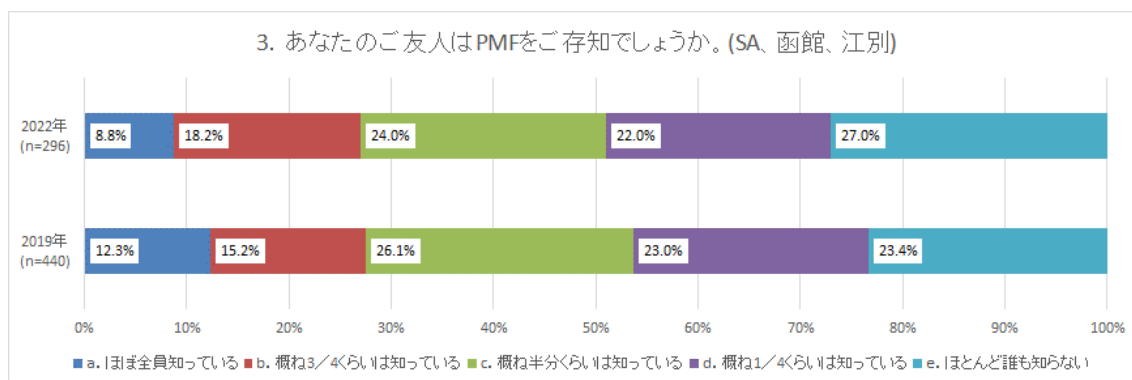


力的に演奏会を開催しているが、地元で生の演奏を聴く機会が多くない聴衆の素直な声として注目しておきたい。

函館演奏会で使用した調査票では「音鑑会員だから」という選択肢を置いている。これは、はこだて音楽鑑賞協会の会員という意味で、結果は41%の来場者が会員であると回答している。協会による情報提供が有効に機能していることを示唆している。また、29%が「PMFの演奏を聞きたい」としている。

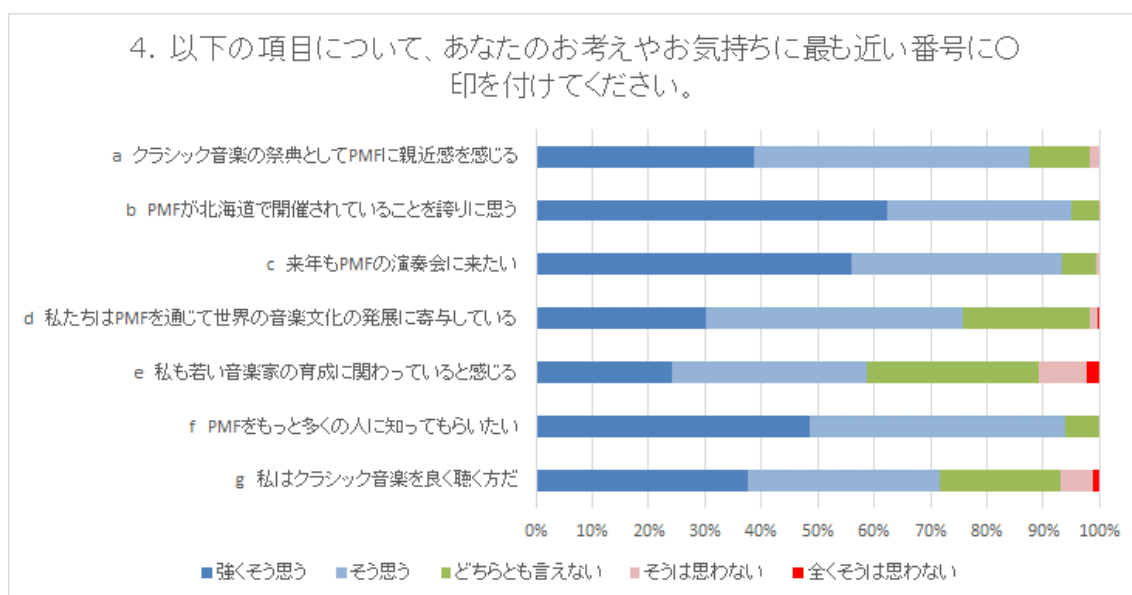
4-3. PMFの認知度

苫小牧での調査ではこの設問は含めていないので、函館と江別での結果である。比較のために載せた2019年の結果もこの2都市での演奏会分である。2019年と比較してやや知られていない方にシフトしている。この結果、加重平均は2019年の42.5%に対して、2022年は39.9%であった。札幌演奏会での結果は43.3%であったので3%ポイントほど低い結果である。札幌でも2019年と比較すると加重平均値は低下しており、コロナ禍による中止の影響がここにも出ていると考える。



4-4. PMF に関する意識

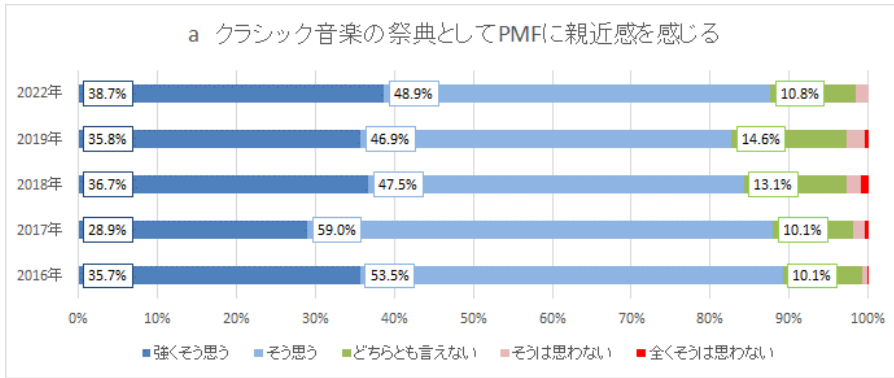
札幌演奏会での調査から 7 項目を選んで設問とした。全体として札幌調査と同様の傾向であるが、全体として肯定的意見（強くそう思う、そう思う）がやや低く、中立的意見（どちらとも言えない）がやや高くなっている。ただし、項目 e「私も若い音楽家の育成に関わっている」では、道内演奏会の方が 10%ポイントほども高い結果であった。この結果は 2019 年調査でも同様である。



参考として札幌演奏会での調査結果との比較表を以下に示す。

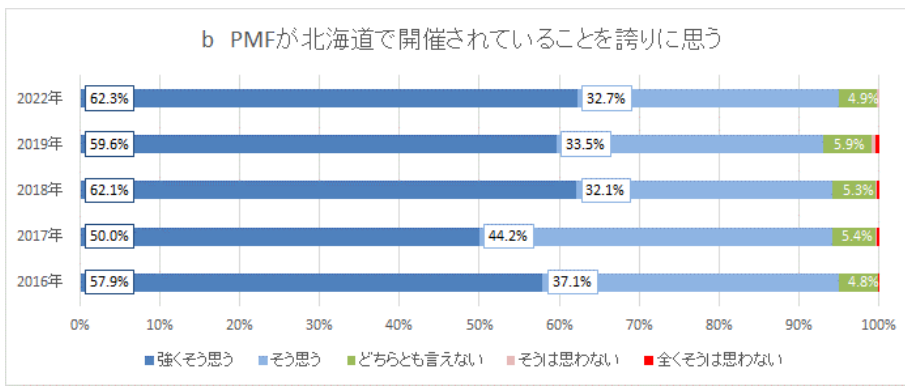
4. 以下の項目について、あなたのお考えやお気持ちに最も近い番号に○印を付けてください。

	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そうは思わない	全くそうは思わない	肯定的意見
a クラシック音楽の祭典としてPMFに親近感を感じる	38.7%	48.9%	10.8%	1.6%	0.0%	87.6%
b PMFが北海道で開催されていることを誇りに思う	62.3%	32.7%	4.9%	0.2%	0.0%	94.9%
c 来年もPMFの演奏会に来たい	55.9%	37.5%	6.0%	0.5%	0.0%	93.4%
d 私たちはPMFを通じて世界の音楽文化の発展に寄与している	30.2%	45.6%	22.3%	1.5%	0.4%	75.8%
e 私も若い音楽家の育成に関わっていると感じる	24.3%	34.6%	30.5%	8.3%	2.4%	58.8%
f PMFをもっと多くの人に知ってもらいたい	48.6%	45.3%	6.0%	0.0%	0.0%	94.0%
g 私はクラシック音楽を良く聴く方だ	37.6%	34.1%	21.4%	5.6%	1.3%	71.7%
(札幌)						
a クラシック音楽の祭典としてPMFに親近感を感じる	50.8%	43.1%	5.4%	0.7%	0.1%	93.8%
b PMFが札幌で開催されていることを誇りに思う	69.7%	26.6%	3.2%	0.3%	0.2%	96.3%
c 来年もPMFの演奏会に来たい	63.1%	32.2%	4.4%	0.2%	0.2%	95.2%
d 私たちはPMFを通じて世界の音楽文化の発展に寄与している	25.8%	52.7%	18.8%	2.5%	0.3%	78.4%
f 私も若い音楽家の育成に関わっていると感じる	15.1%	33.7%	28.0%	18.0%	5.2%	48.7%
h PMFをもっと多くの人に知ってもらいたい	53.4%	39.7%	6.3%	0.5%	0.2%	93.0%
n 私はクラシック音楽を良く聴く方だ	44.4%	34.6%	14.2%	5.8%	1.1%	78.9%

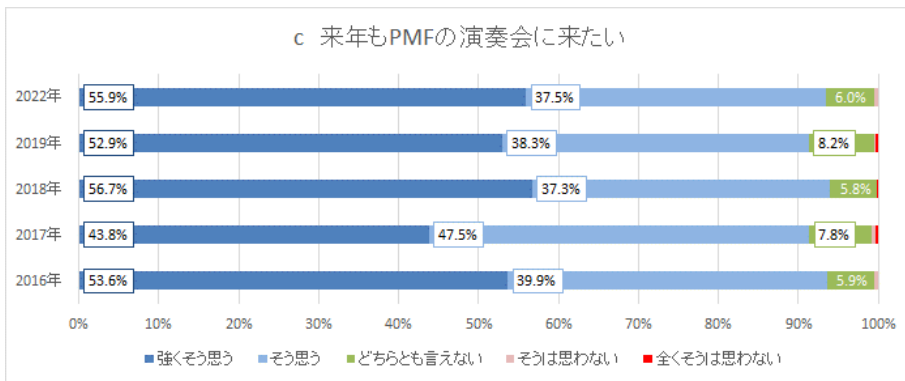


肯定的意見は2019年までは漸減傾向であったが、2022年では一転して拡大した。札幌の結果と比較すると、「強くそう思

う」は低く、「そう思う」は札幌を上回っている。

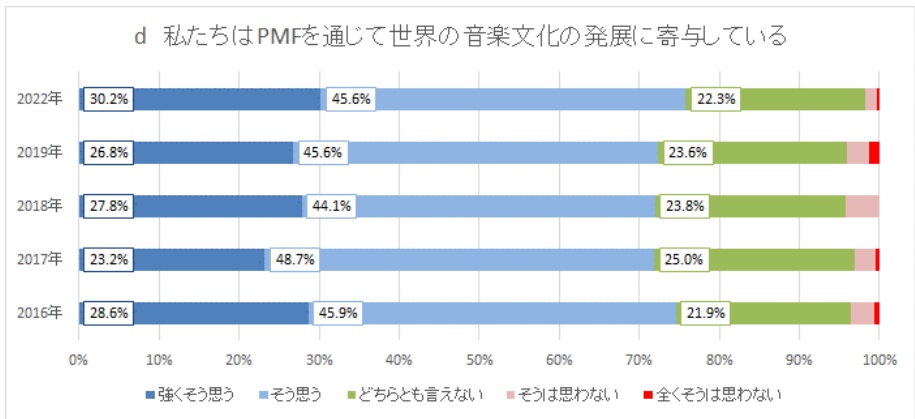


2016年以降、圧倒的に肯定的意見という結果で、2022年は特にその傾向が強い結果となっている。

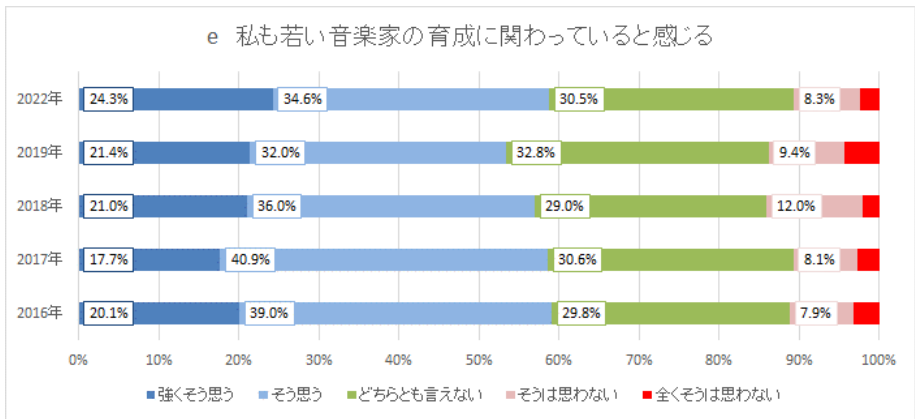


b項と同様の結果で、強い否定的意見が0%である。「強くそう思う」が傾向的に拡大しているように見える。年1回の貴

重な機会への期待感を示唆していると考えたい。

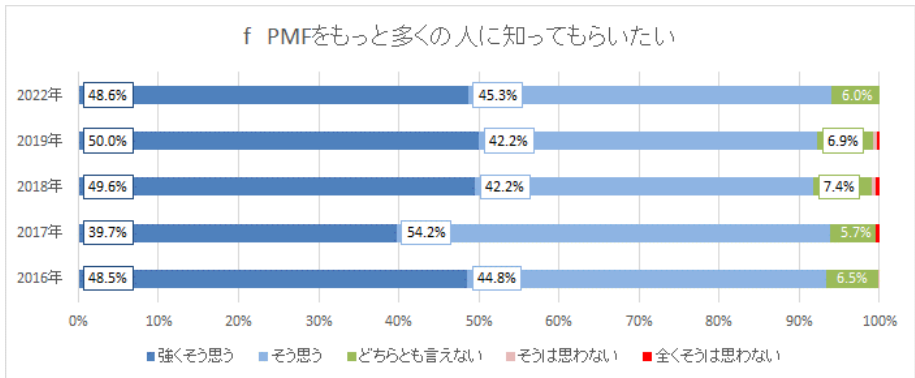


この項目も2017年以降、肯定的意見が漸増傾向にある。PMFが目指す目標が理解されていることが示唆されている。



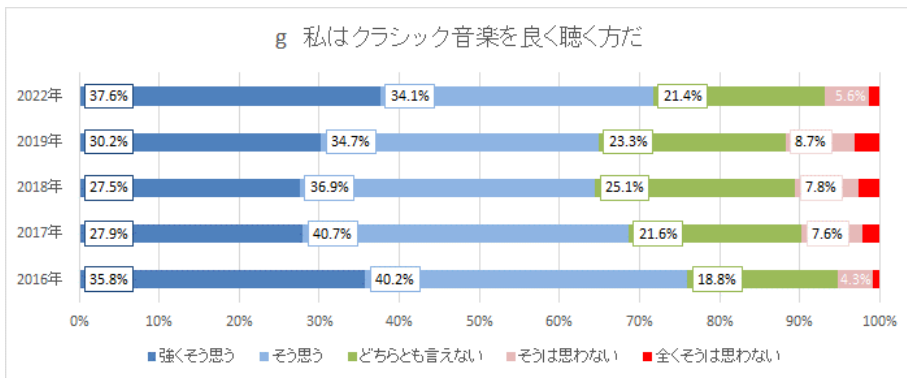
d項とは異なりここでは「私も」という一人称単数の問いかけで回答者自身の意見を求めている。札幌の結果でも「私たちは」という問い

かけに比べて肯定的意見の割合は低下しているが、道内演奏会2022年の結果では24%が「強くそう思う」としており、しかもこの比率は2017年以降漸増傾向にあることには注目してよい。



この項目も肯定的意見が圧倒的であり、調査開始以来その比率には大きな変化はない。このことは、裏返せば多くの回答者は

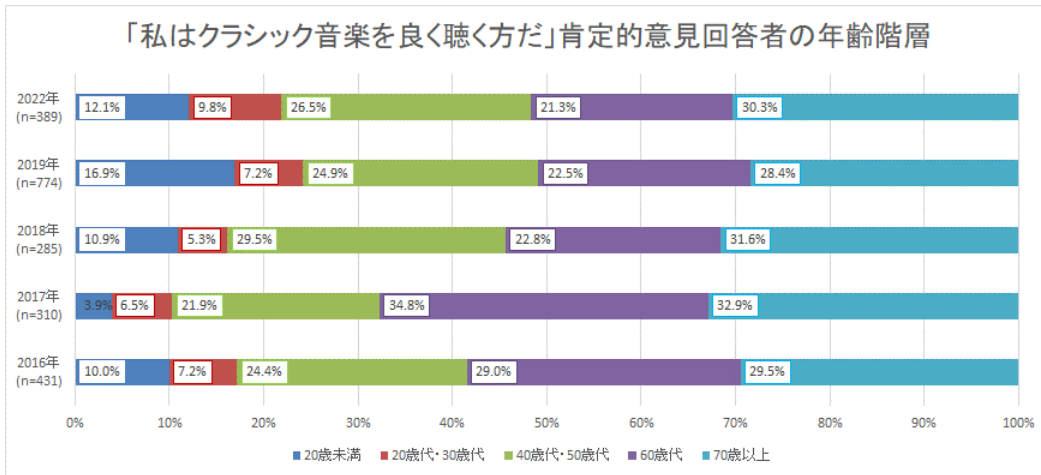
PMFが十分に知られていないと考えていることを示している。



2016年から18年まではクラシック音楽をよく聴くとは考えていない回答者が漸増傾向であったが、以降はクラシック音楽に

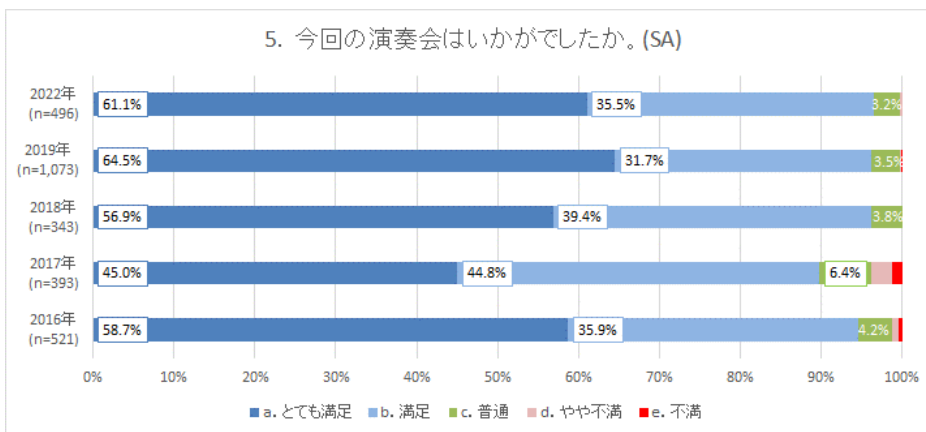
馴染んでいる聴衆が増えてきている。

肯定的意見の回答者の年齢構成は、60歳代以上が過半を占めているが、この年齢階層が傾向的に増えているわけではない。クラシック音楽ファン＝高齢者という図式ではなく、40歳代・50歳代以下の若い階層にも支持層は存在を確認することが出来る。

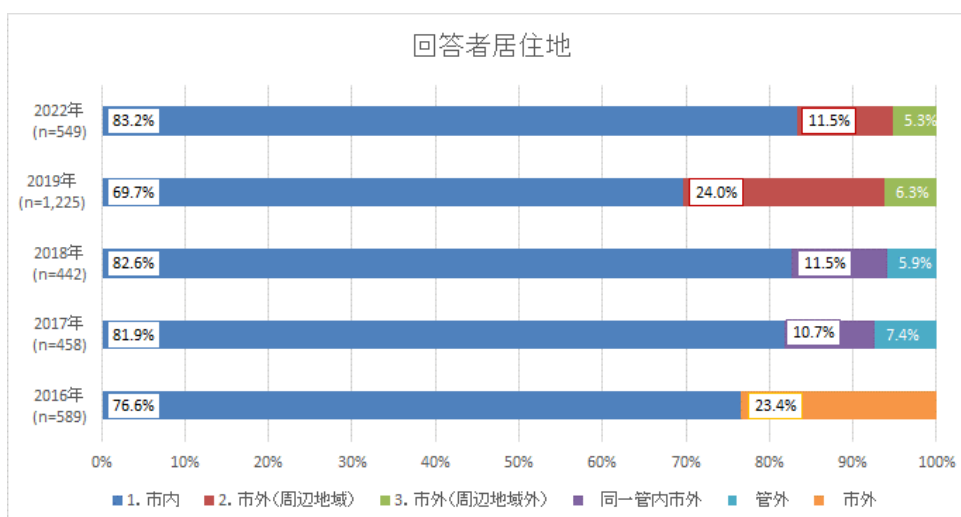
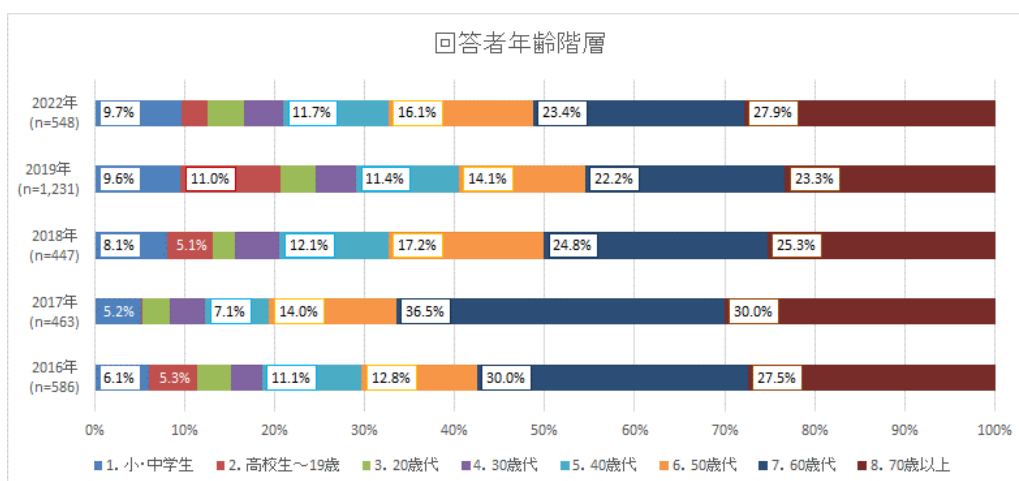
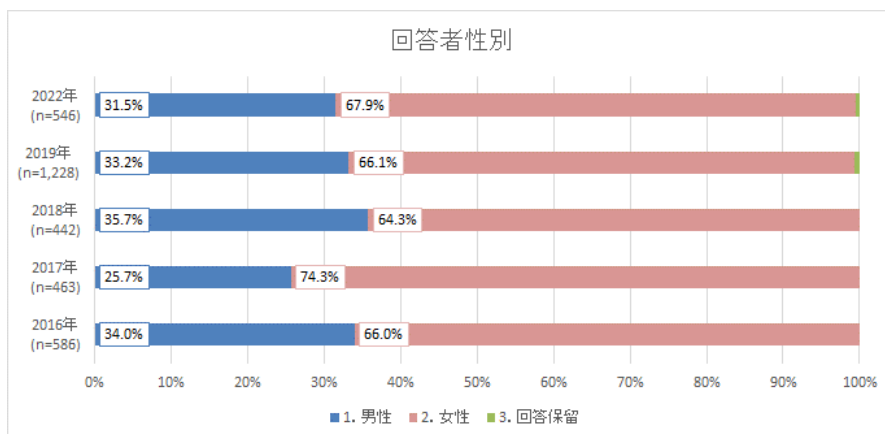


4-5. 演奏会の感想

道内演奏会で毎回訪ねている設問である。常に肯定的意見が90%を超えており、特に2022年は「不満」とする意見は0%であった。毎年、高い満足度の演奏会である。



4-6. フェースシート



5. 集計結果分析その3 東京演奏会の調査結果

毎年、札幌での全日程が終了したのち首都圏やその他の地域で演奏会が開催される。2022年は、東京のサントリーホールでの演奏会であった。なお、2018年の調査は広島で実施したので設問内容が異なるため、以下では比較対象としていない。会場入り口で調査票を配布し、終演後の出口で回収を行った。

各年の演奏会開催都市は以下のとおりである。

2019年 東京、川崎

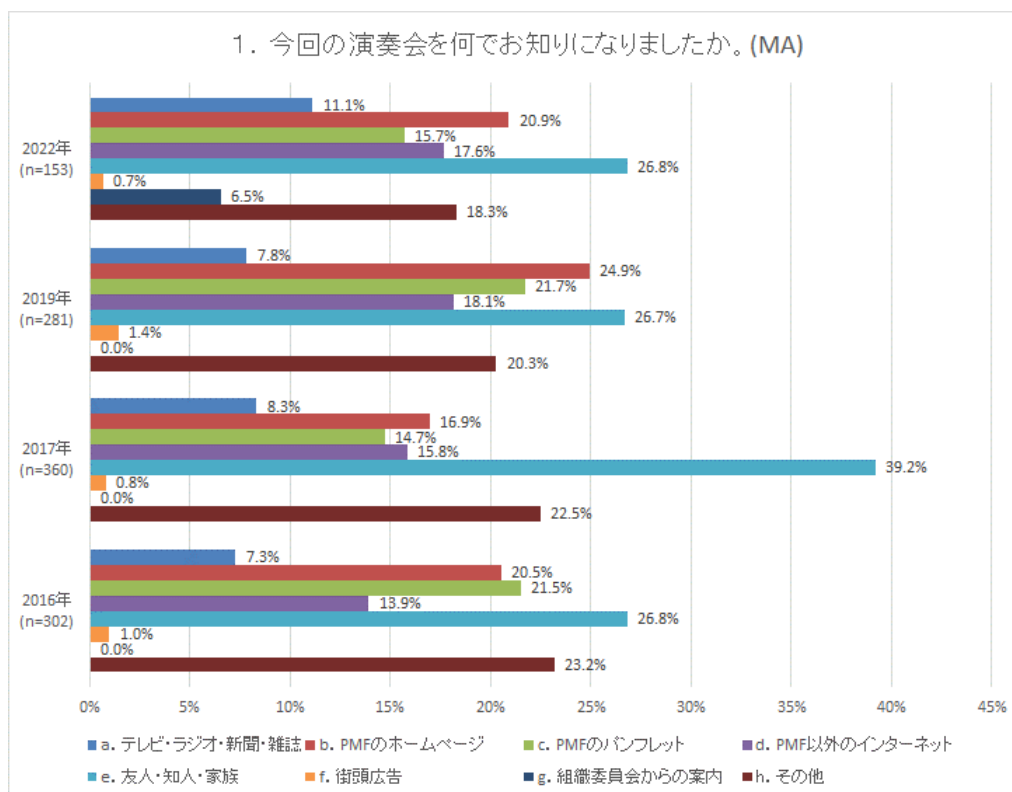
2018年 広島

2017年 川崎、東京

2016年 東京

5-1. 演奏会に関する情報入手

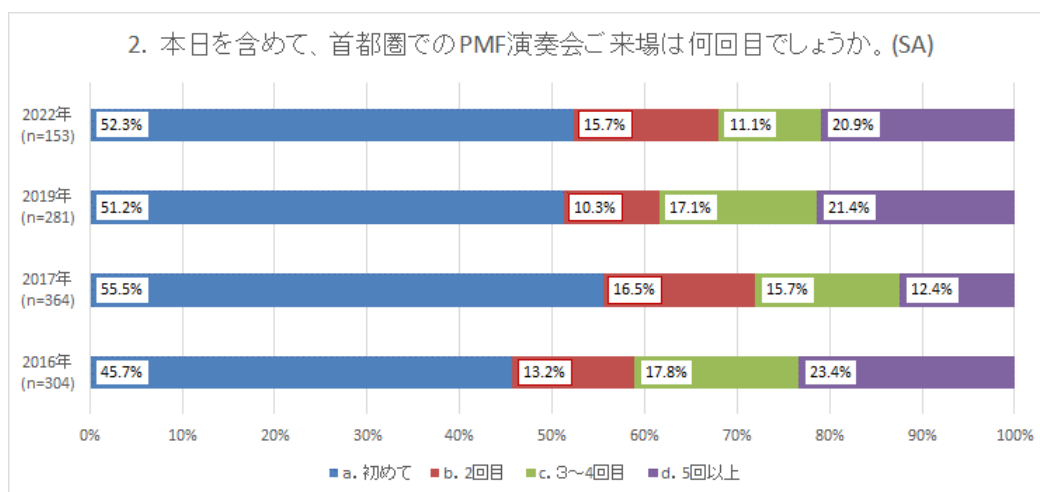
演奏会情報の入手経路を確認する設問である。2022年調査では選択肢に新たに「組織委員会からの案内」を追加した。この選択肢を選択したのは回答者の7%であった。これまでの結果を比較すると、2017年の「友人・知人・家族」が突出した値を示しているが、全体として緩やかな変化傾向を示している。2019年まではインターネットメディアへの依存



増が観察されたが、2022年では5%ポイントほど2019年を下回っており、この傾向は落ち着いている。

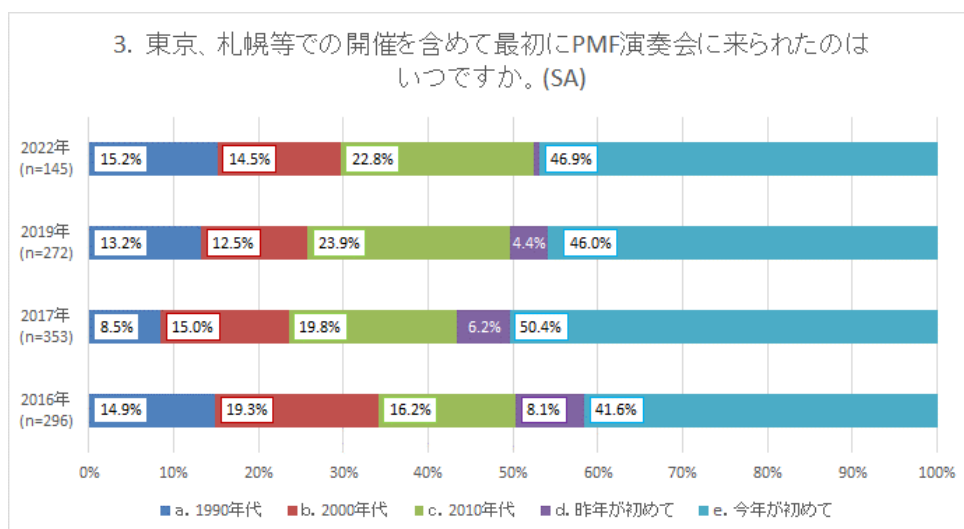
5-2. 首都圏でのPMF演奏会来場

「初めて」来場が50%を超えている状況に大きな変化はない。2022年では48%が複数回の来場であり、夏季とは言え多彩な演奏会が開催されている首都圏において一定の来場者を継続して引き付けている。



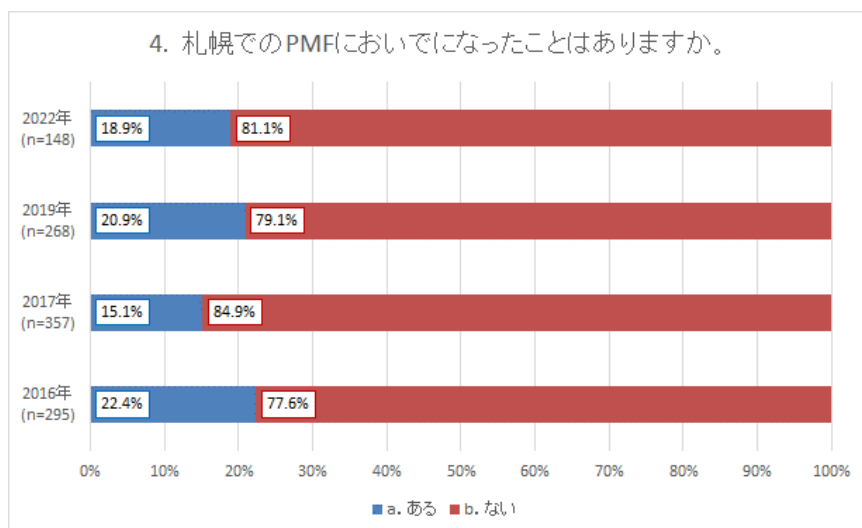
5-3. 初来場時期

札幌を含めての初来場時期である。2022年の「昨年初めて」が例年に比べて少ないのは、2021年PMFが感染症対応のための特別な開催であり、かつ会期中で中止を余儀なくされたことによる。この点以外は大きな変化は無いと見るべきだろう。



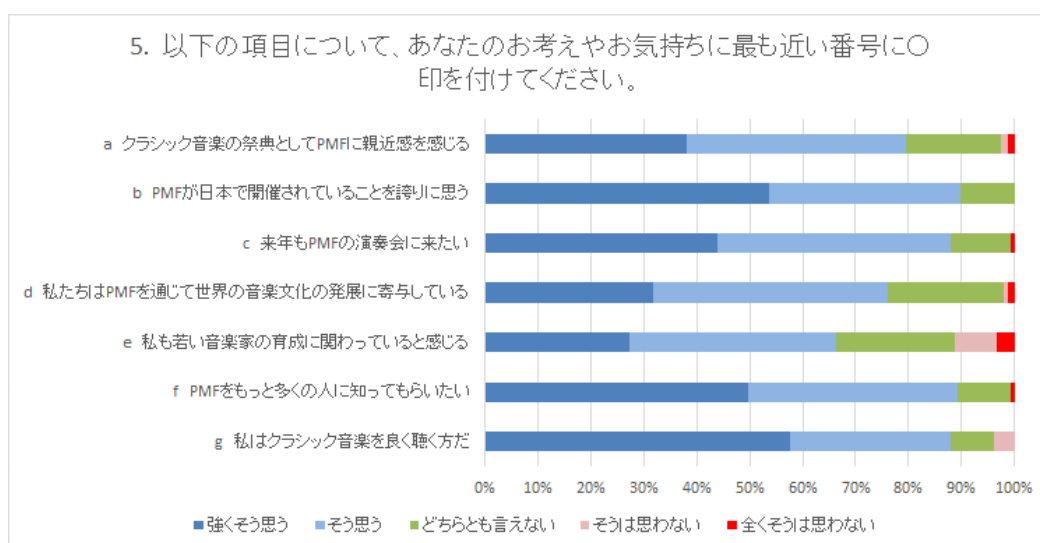
5-4. 札幌への来訪経験

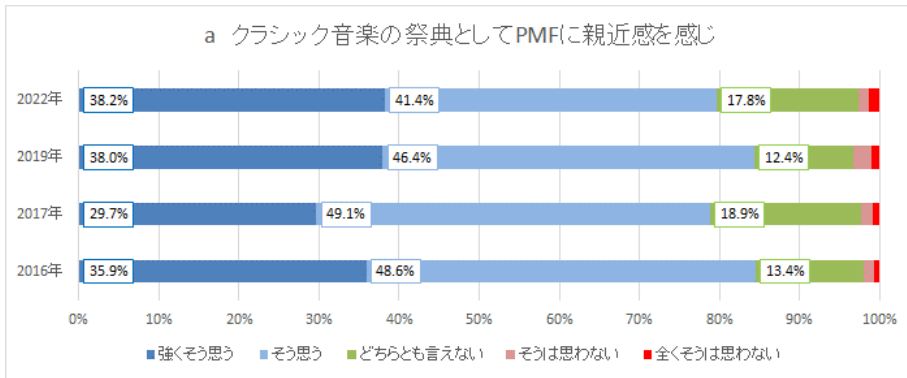
回答者の9%が札幌演奏会への来場経験を有すると回答している。この比率も大きな変化はなく、概ね来場者の20%前後が札幌への来場経験を有している。PMFとして道外からの札幌演奏会への来場者を増やすことを積極的に考えるかどうかにより、道外を意識した情報発信のあり方が変わり、そのことにより首都圏での演奏会の意味合いが変わってくると思われる。長期的な観点からの検討が必要であろう。



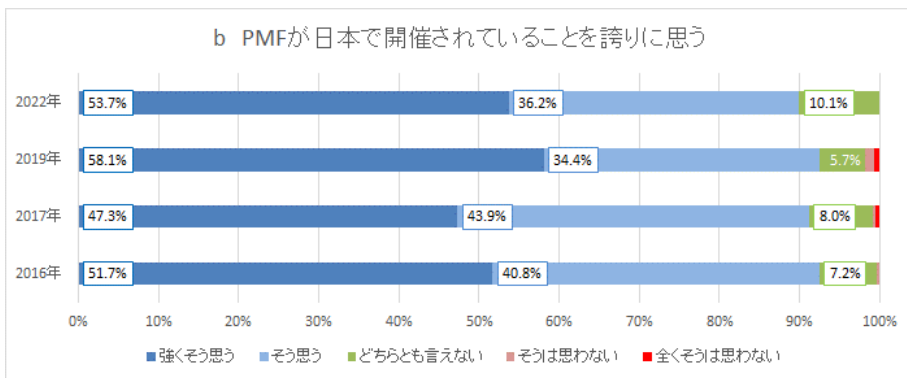
5-5. PMFに関する意識

設問項目を絞ってPMFに関する意識調査を実施した。ここで取り上げた項目についてはいずれも肯定的意見が60%を超える結果となっていて、PMFに対して一定の評価が下されている。しかし、札幌演奏会の結果と比較すると肯定的意見の比率が低く、中立的意見（どちらとも言えない）の比率が高くなっている。



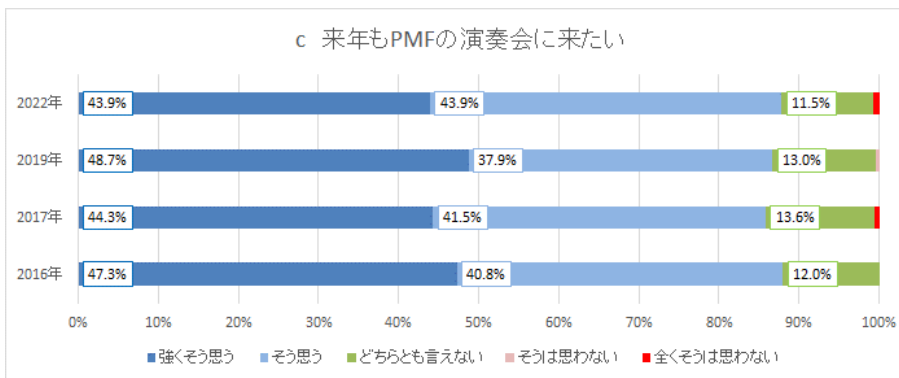


肯定的意見が80%で2019年の84%から若干低下したが、否定的意見も低下しているので、全体の傾向は変わらない。

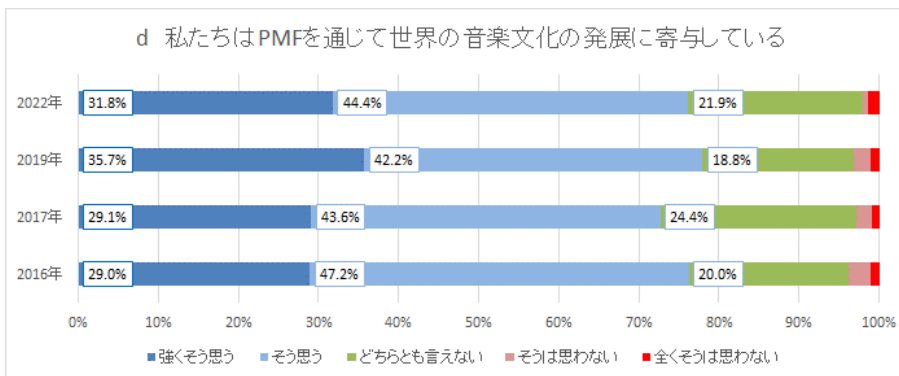


日本で開催の音楽祭としてPMFを誇ることが出来るかを尋ねた設問である。2019年の93%に対して2022年は90%

であったが、否定的意見は0%であった。

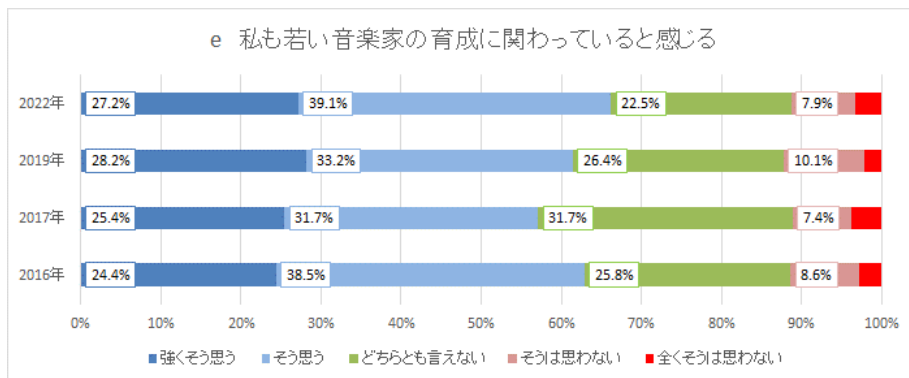


肯定的意見は札幌演奏会の95%に対して88%とやや下回るが、過去の結果と同様で大きな変化はない。



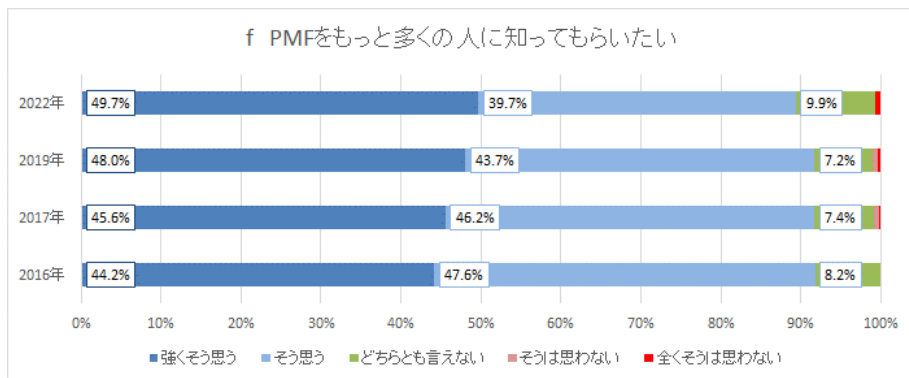
積極的肯定（強くそう思う）は東京演奏会のほうが6%ポイント高くなっている。この傾向はこれまでも

見られたが、首都圏の演奏会来場者の方が PMF の意義をより強く意識していると言えそうである。



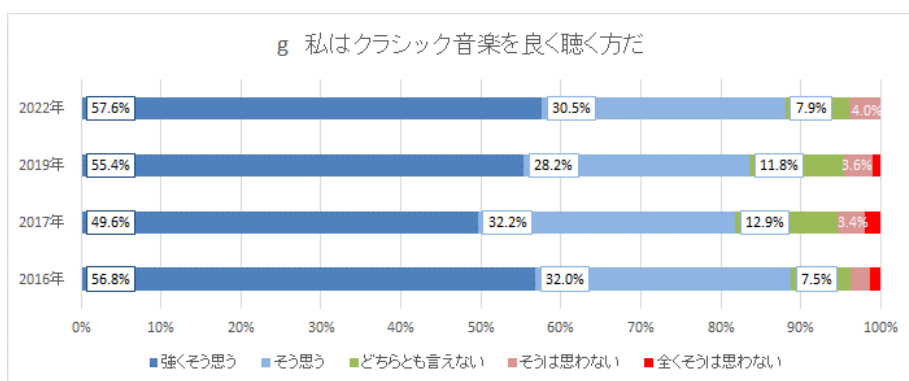
d 項と同様の傾向を示している。肯定的意見は札幌演奏会を大きく上回り、積極的肯定（強く思う）は12%ポイント上

回っている。また、肯定的意見が2017年以降漸増傾向にある。



札幌演奏会の結果を4%ポイントほど下回るがほぼ同水準の結果である。積極的肯定の比率が2016年から漸増している点に

注目しておきたい。

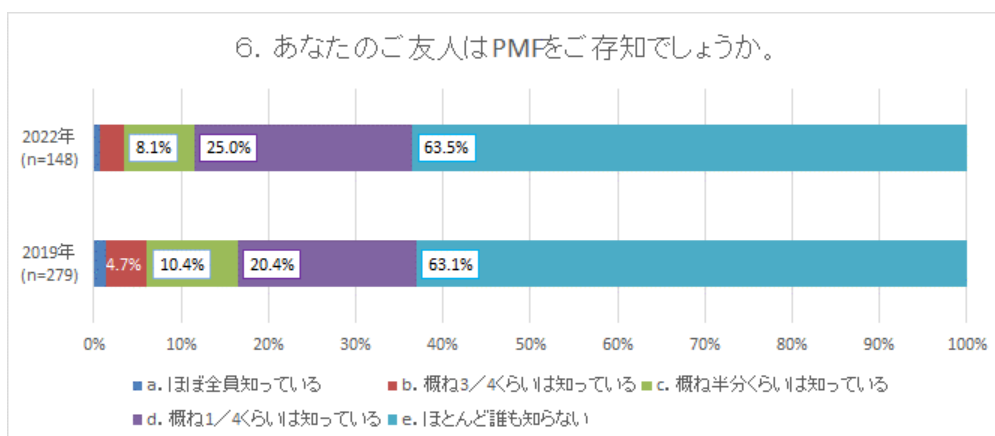


肯定的意見は札幌演奏会を13%ポイント上回っている。クラシック音楽を聴きこんでいる来場者が中心となっている。

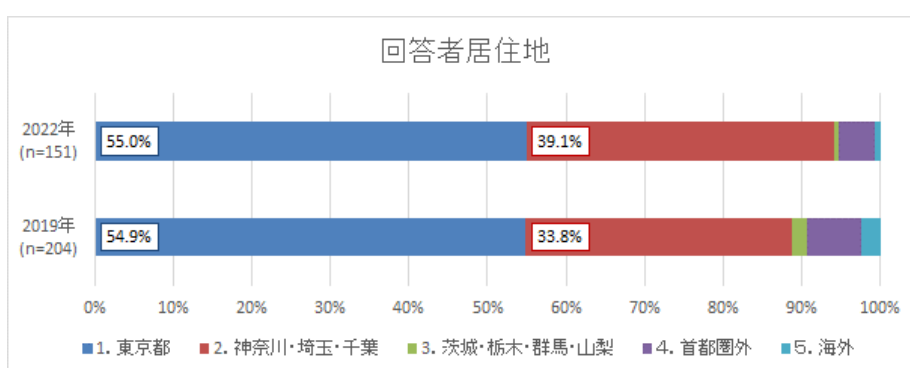
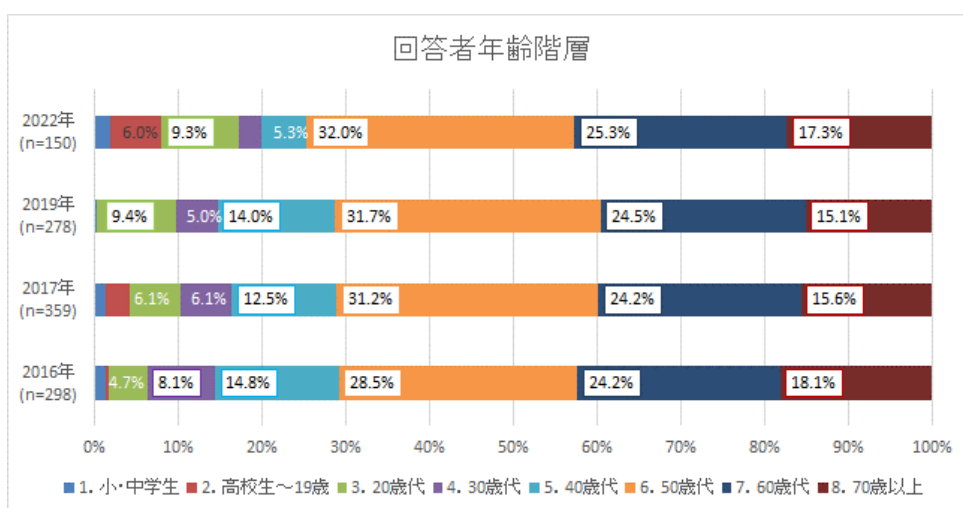
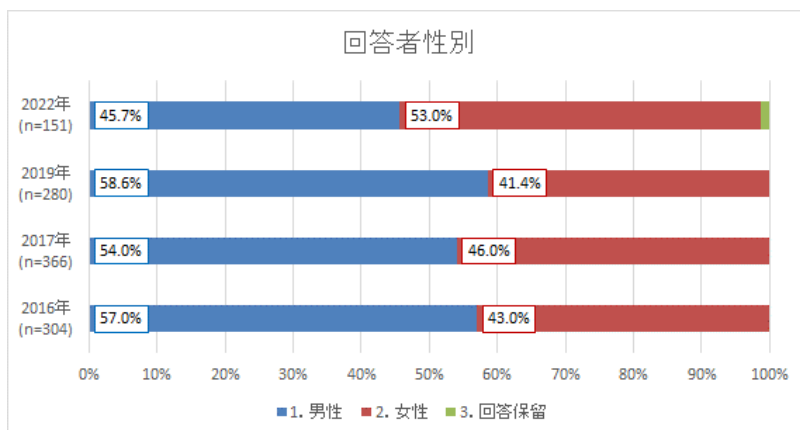
5-6. PMF の認知度

演奏会来場者を超えた一般的な PMF 認知度の把握への接近を試みる設問で、2019年調査に続き実施した。結果は図の通りで、2019年と比較するとよく知られていると考える回

答の比率がわずかに減少し、「概ね1/4くらいは知っている」の比率が5%弱増えている。この結果、回答者加重平均は2019年の15.2%に対して、2022年は13%であった。札幌演奏会での結果を大きく下回るのは2019年と同様である。首都圏の回答者はクラシック音楽をよく聴く人たちであると想定すると、その友人知人もクラシック音楽に理解のある人たちが含まれるであろうが、十分には知られていないという結果である。



5-7. フェースシート



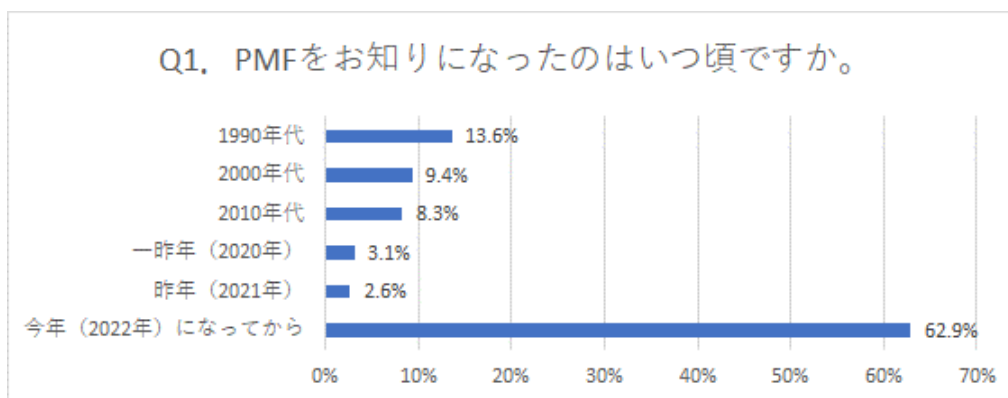
6. JAF 連携によるアンケート調査

一般社団法人日本自動車連盟（JAF）の公式インターネットサイトを通してのプロモーション活動として PMF の CD やチケットが当たるキャンペーンを実施した。応募に際してアンケート調査に回答することを求め、計 3,097 件の回答を得た。回答者は JAF の会員で、公式インターネットサイトにアクセスしてキャンペーンに応募した人たちである。キャンペーンは 3 回に分けて実施し、それぞれ異なる賞品を用意した。提供された賞品は次のとおりである。

- ・賞品 1 PMF2021 のハイライトを取めた CD
- ・賞品 2 演奏会チケット
- ・賞品 3 オリジナル T シャツ

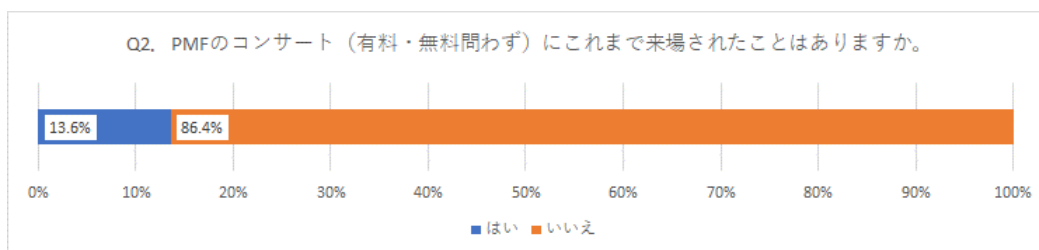
6-1. 認知時期

回答者の 63%が「今年になってから」PMF を知ったと回答している。札幌演奏会への初来場者では 29%であったので、このキャンペーンを通してこれまで PMF を知る機会を持たなかった人たちにアプローチできたことになる。PMF にとって支持層、来場者層を拡大する第一歩となる。

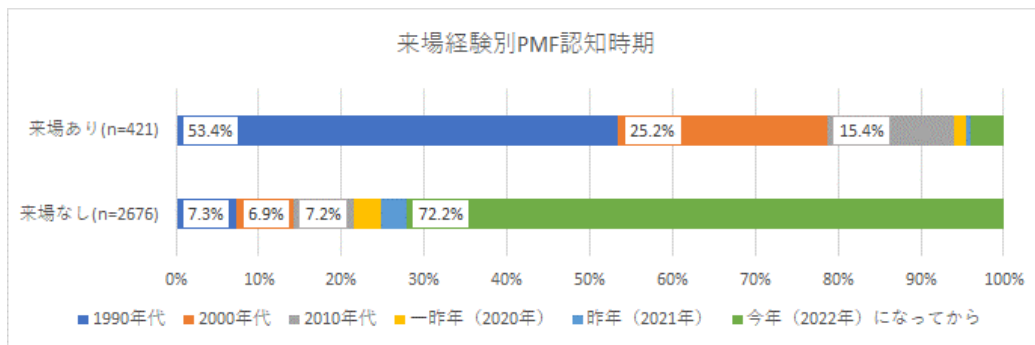


6-2. 来場経験

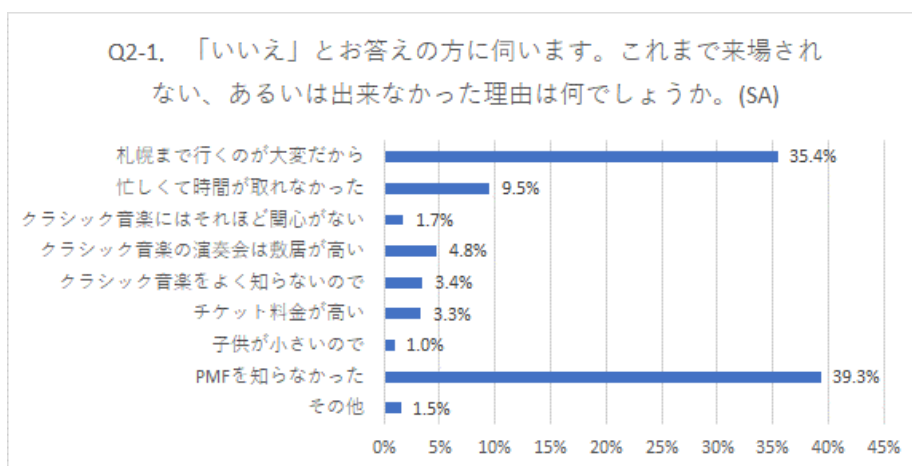
演奏会への来場経験があるのは 14%であった。来場経験の有無で PMF 認知時期を比較す



ると、顕著な違いが見て取れる。来場経験を持っている回答者は半数以上が1990年代からPMFを知っているのに対して、来場経験のない回答者は72%を超える回答者が「今年になってから」としている。これまで接点を持たなかった人たちとのコンタクトが出来たことになる。



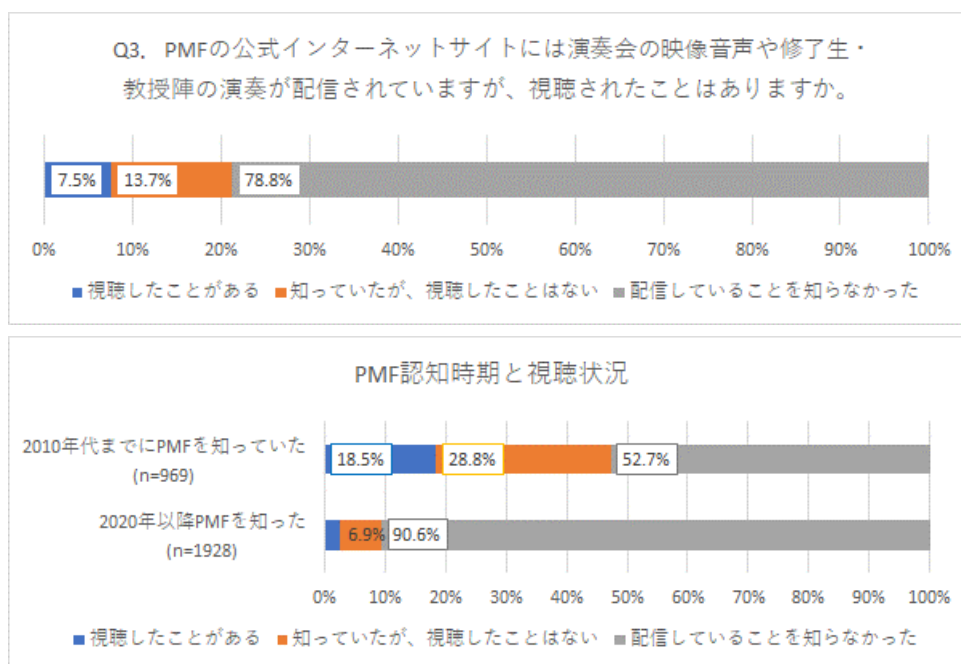
来場経験無しとの回答者に来場できない理由は何かを単一回答方式で尋ねた。全体では「札幌まで行くのが大変だから」と「PMFを知らなかった」が主たる理由となっている。PMFの存在を知っていただくこと、さらに札幌までの距離をいかに克服するかがPMFにとっての大きな課題であることが示唆されている。



6-3. 視聴経験

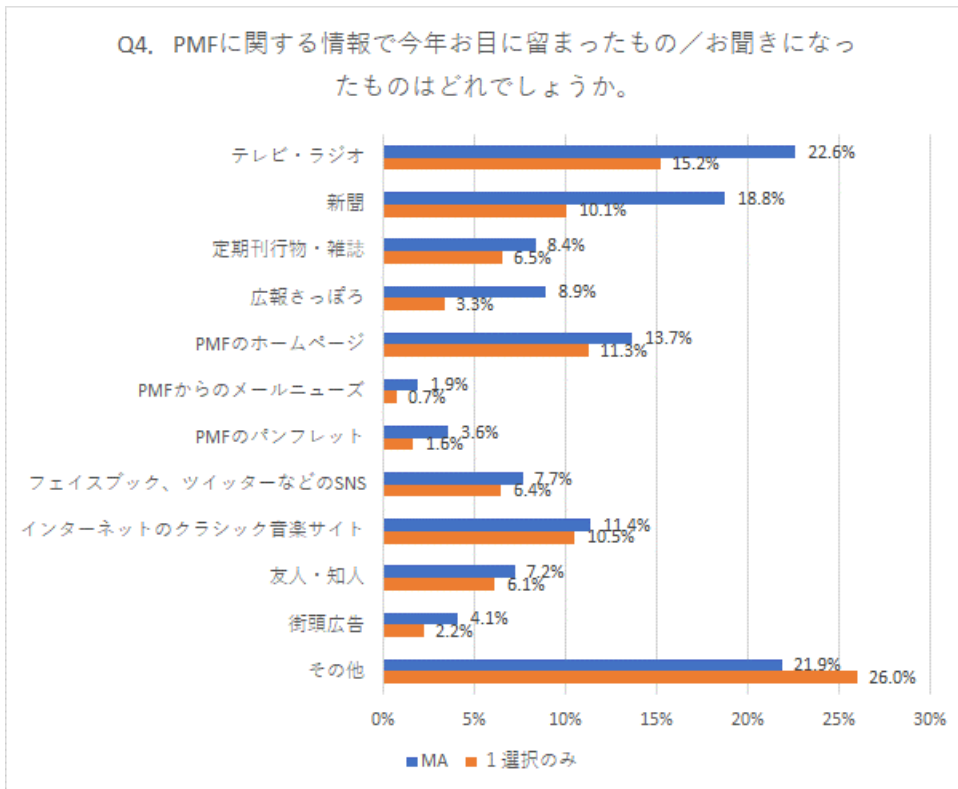
公式サイトで提供される演奏録画について、20%が視聴したあるいは知っていると回答した。PMFとの接点をこれまで持たなかった回答者が過半なので、札幌演奏会来場者の56%には比べるべくもないが、回答者の20%が存在を知っていたことは特筆すべきことであろう。実際、PMFの認知時期別に見ると2010年代までにPMFの存在を知っていた回

答者の47%は演奏録画の提供を知っていて、この比率は札幌演奏会来場者に近い。ここからも、PMF自体の認知を如何に上げるかが課題であることが示唆されている。



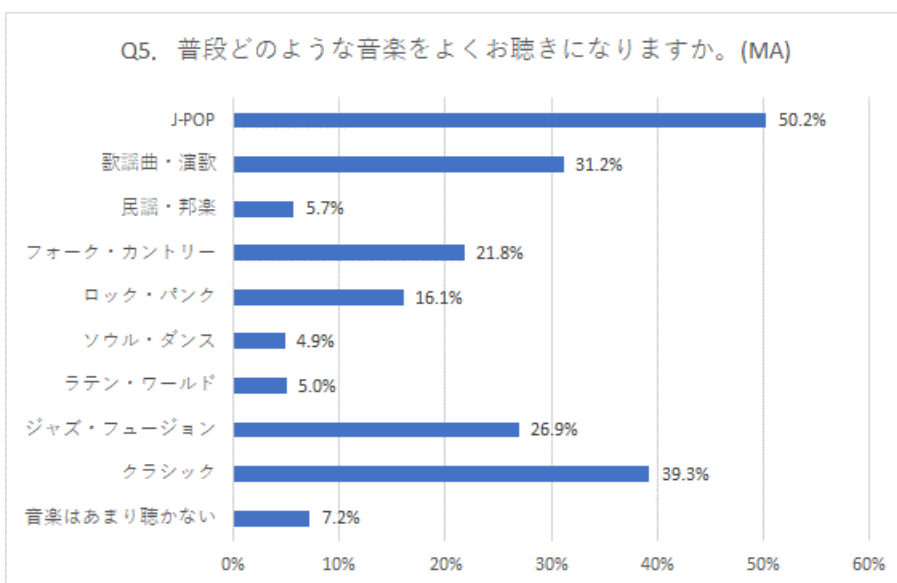
6-4. 情報源

このキャンペーンはPMF開催前の6月に実施されたので、この設問への回答は6月時点のものであることに留意する必要がある。テレビ・ラジオ23%、新聞19%で、札幌演奏会来場者の回答と顕著な違いがある。回答比率がテレビ・ラジオと同水準であった「その他」の内容について自由記入欄では記入532件のうち363件がJAFサイトあるいはこのキャンペーン告知としている。このキャンペーン自体がPMFを広く知らせる効果を持ったことが示唆されている。この設問は複数回答可としていたが、全回答3,097件のうち2,515件は1項目のみを選択していた。アンケート実施が6月で会期前であったことからテレビ・ラジオの報道頻度と新聞の報道頻度に差が生じていたかもしれないが、この点は報道状況を確認することで何らかの示唆があるだろう。すでに知っているイベント、関心のあるイベントに関するこれら情報源の記事やニュースは目に留まり、記憶に残るが、知らない者、関心のない者の記憶には残らないということこの結果は示している。



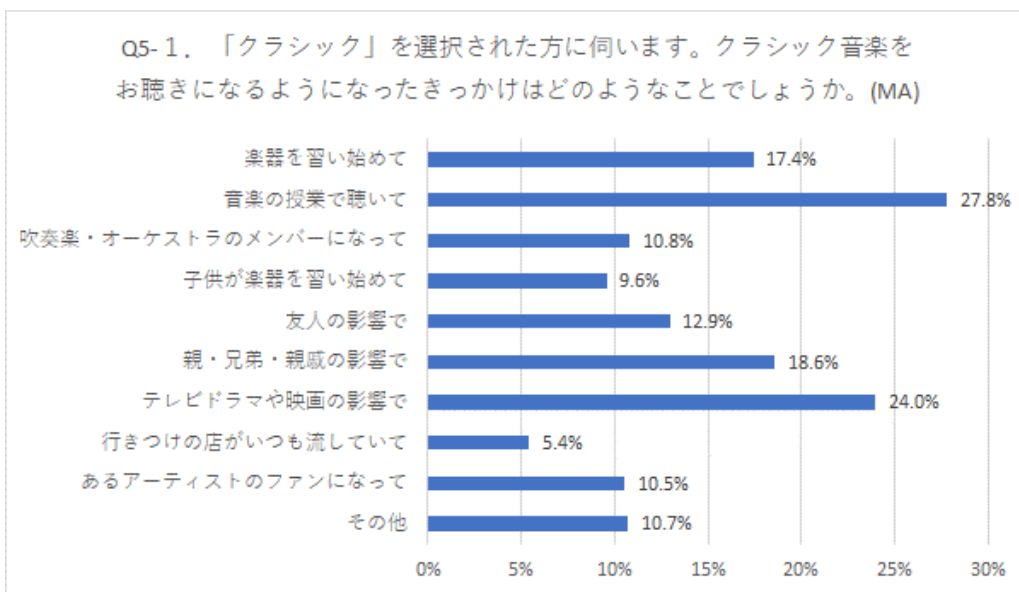
6-5. 音楽ジャンルの嗜好

好みの音楽ジャンルについて複数回答で尋ねた設問である。回答者の半数はJ-POPとクラシックをよく聴くとしている。「音楽はあまり聴かない」とする回答は7%に留まり、このキャンペーンがジャンルに係わらず音楽を良く聴く層の関心を引くことが出来たことを示している。



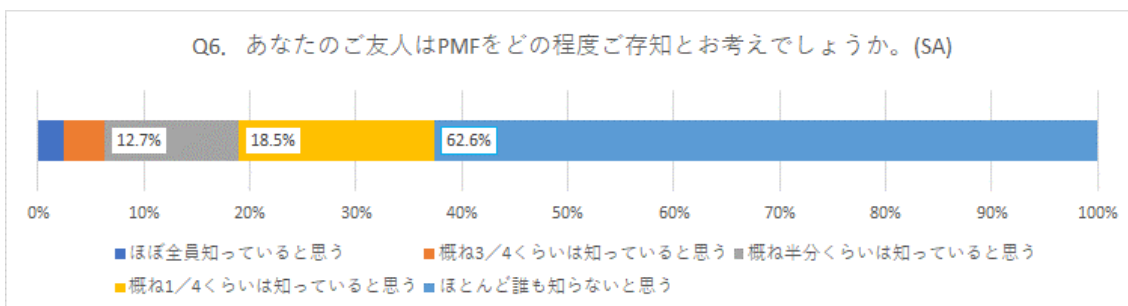
クラシック音楽に親しむきっかけ

Q5 でクラシックを選択した回答者にクラシック音楽に親しむきっかけを複数回答で尋ねた。「音楽の授業で聴いて」、「テレビドラマや映画の影響で」、「親・兄弟・親戚の影響で」、「楽器を習い始めて」が主要なきっかけである。

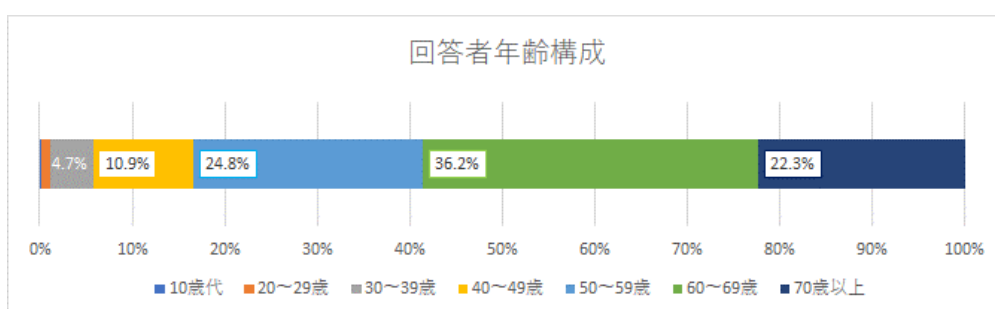
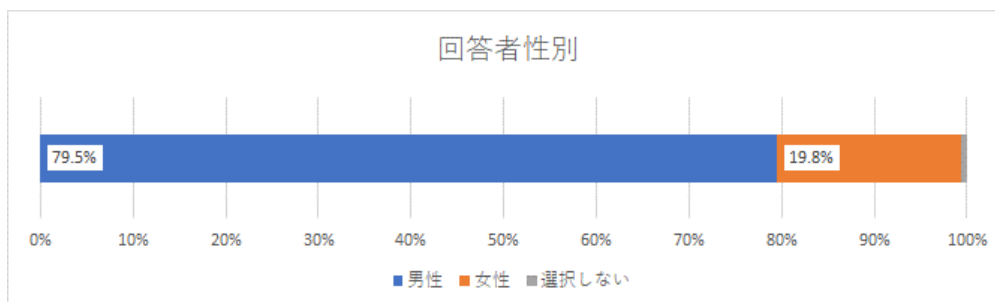


6-6. PMF の認知度

PMF の一般的な認知度を推測するための設問である。この結果から回答者加重平均を計算すると、全体で 16.2%、札幌演奏会では 43.3%、道内演奏会で 39.9%、東京演奏会 13% であったので、東京演奏会よりは高い結果となった。



6-7. フェースシート



まとめ

PMF2022 の開催期間中に実施した来場者調査の結果について、主要なファインディングスを整理して列挙する。

熱心に演奏会に来場する聴衆は PMF を形作る不可欠な存在である。この調査を通して来場者の変わらぬ期待と支持が確認できる。特に 3 年ぶりの開催であったことでその傾向は強いが、PMF の支持基盤の拡大と深化という意味で演奏会来場者への対応はもちろんだが、様々な理由で来場できない／しない人たちの興味と関心を引き付け続けるあらゆる方策が必要である。その際、来場者あるいは聴衆の視点、立場に立った検討と実施が重要であろう。(以下、括弧内は本文の該当ページである。)

[札幌演奏会]

- ① 定番となった初来場時期についての設問では結果に大きな変化はなく、これまで同様に初来場者を迎え入れている。初来場者の年齢構成を見ると、今後長期にわたって PMF を支持してくれることが期待できる 30 歳代までの若い層が 35% を占めており、来場者の世代交代、すなわち支持基盤の継続が見通せる。重要なことは、この層が来年以降も継続して来場すること、そして PMF を知り、関心を寄せるが様々な理由で来場できない、あるいは来場しない選択をする人たちの興味関心を次につなげるための努力であろう。公式サイトで展開される録画演奏の配信をはじめとする情報提供は評価できるが、継続することが大事である。(p.3)
- ② 来場形態について、2015 年以降傾向的に「家族と来た」が漸減し、代わりに「一人で来た」が漸増している。この結果の解釈は慎重でなければならないが、より積極的な行動であるとする、PMF への共感と指示がより強くなる可能性を内包する。一方で、「家族と来た」を家族とともに、家族を連れて来場とすると必ずしも受動的な行動ではなく、「一人で来た」が増えると相対的に来場者数の減少につながる恐れもある。(p.5)
- ③ PMF に関する情報源は PMF の公式サイトが圧倒的に多い。サイト利用者の視点に立った情報提供が重要であることを示唆している。情報入手が困難と感じる回答者は毎回一定程度存在し、入手困難と感じる情報を把握することはサイトでの情報提供のあり方を考える際の参考となる。2022 年では「その他」が 2019 年と比較して増加している点に注意をおきたい。(p.7)
- ④ 一般的な PMF の認知度を推測する手がかりとして回答者の周辺でどの程度 PMF が知られていると思うかを尋ね、回答者加重平均を求めている。札幌演奏会での調査結果では 2019 年は 49.4%、2022 年で 43.3% であった。2021 年度札幌市文化芸術意識調査によると 51.6% であるので、来場者は認知度をやや控えめに見ているが、市内ではよく知られていると考えて良い。(p.10)
- ⑤ 今回初めて客演アーティストの希望を自由記入の形で尋ねる設問を採用した。683 件の

回答が寄せられ、計 294 件の演奏家の名を記した具体的な要望・提案があった。アカデミー生の教育的側面と聴衆の関心とのバランスを如何に取るかは PMF が向き合わなければならないチャレンジであるが、同時にこのリストはプロの演奏家として生きていくアカデミー生にとっても参考になる点もあると考える。(p.11)

- ⑥ PMF に関する意識を尋ねる設問の結果にはこれまでの調査結果と比較して大きな変化は見られない。変わらぬ期待と支持が示されている。(p.12)

[道内演奏会]

- ⑦ 初来場時期は 40%が昨年・今年が初めてと回答し、札幌の結果より 20%ポイントほど高い。各都市一回の演奏会で札幌のような選択の余地がないためにピンポイントでスケジュールが合うかどうかということになる。初来場者について、札幌では 1990 年代から PMF を知っていたが来場の機会がなかったとする回答者が 24%だが、道内都市では 10%ポイントほど低い。PMF に関する情報に触れる機会が少ないことが示唆されている。インターネット、ソーシャル・メディアからの情報を享受するためには事前に何らかの知識を持っていなければ難しい。この「最初の一歩」を如何に作り出すかがここで問われていることだと考えられる。(p.21)
- ⑧ 来場のきっかけでは苫小牧、江別では「PMF の演奏を聞きたい」が 45%、回答者の半数に迫る率で、3 年ぶりの開催への期待をうかがわせる。函館では「音鑑会員だから」が 41%、「PMF の演奏を聞きたい」が 29%であった。(p.23)
- ⑨ PMF に関する意識について、札幌演奏会での調査から 7 項目を選んで設問とした。全体として札幌調査と同様の傾向であるが、全体として肯定的意見（強くそう思う、そう思う）がやや低く、中立的意見（どちらとも言えない）がやや高くなっている。ただし、項目 e「私も若い音楽家の育成に関わっている」では、道内演奏会の方が 10%ポイントほど高い結果であった。この結果は 2019 年調査でも同様である。(p.25)
- ⑩ 道内演奏会での調査では演奏会の感想を尋ねている。例年極めて高い満足度で推移しているが、2022 年調査では「不満」とする回答は皆無であった。(p.28)

[東京演奏会]

- ⑪ 演奏会に関する情報源は、2017 年では圧倒的に「友人・知人・家族」であったものが、2019 年、2022 年と PMF 公式サイトへの依存が高くなっている。今回、「組織委員会からの案内」という選択肢を追加したが、回答率は 7%で他の選択肢と比較して多くなかった。(p.30)
- ⑫ 首都圏での演奏会への来場経験は、52%が初来場とし、この比率は過去の調査と変わらない。別の見方をすれば約半数は複数年の来場であり、継続して PMF を楽しみ、支持する層が存在する。(p.31)

- ⑬ 札幌演奏会も含めての初来場時期は昨年あるいは今年が初とする回答が 50%弱で、大きな変化はない。(p.31)
- ⑭ 札幌演奏会への来場経験は、19%が有りとしている。この比率は 2016 年の調査開始以降上下はあるが、大きな変化は無い。(p.32)
- ⑮ 設問項目を絞って PMF に関する意識調査を実施した。ここで取り上げた項目についてはいずれも肯定的意見が 60%を超える結果となっていて、PMF に対して一定の評価が下されている。しかし、札幌演奏会の結果と比較すると肯定的意見の比率が低く、中立的意見（どちらとも言えない）の比率が高くなっている。(p.32)
- ⑯ PMF の認知度について、回答者加重平均は 2019 年の 15.2%に対して、2022 年は 13%であった。札幌演奏会での結果を大きく下回るのは 2019 年と同様である。首都圏の回答者はクラシック音楽をよく聴く人たちであると想定すると、その友人知人もクラシック音楽に理解のある人たちが含まれるであろうが、十分には知られていないという結果である。(p.34)

[JAF 連携によるアンケート調査]

- ⑰ 日本自動車連盟 (JAF) との連携によるキャンペーンに際して web アンケートを実施した。3 種の賞品に対して計 3,097 件の応募があり、アンケートへの回答を得た。
- ⑱ 回答者の 63%が「今年になってから」PMF を知ったと回答している。札幌演奏会への初来場者では 29%であったので、このキャンペーンを通してこれまで PMF を知る機会を持たなかった人たちにアプローチできたことになる。PMF にとって支持層、来場者層を拡大する第一歩となる。(p.37)
- ⑲ 演奏会への来場経験があるのは 14%である。来場経験を持っている回答者は半数以上が 1990 年代から PMF を知っているのに対して、来場経験のない回答者は 72%を超える回答者が「今年になってから」としている。これまで接点を持たなかった人たちとのコンタクトが出来たことになる。(p.37)
- ⑳ PMF の認知度に関する設問では、回答者加重平均は 16.2%で、札幌演奏会では 43.3%、道内演奏会で 39.9%、東京演奏会 13%であったので、東京での結果とほぼ同水準であった。(p.41)

<付属資料>

2022年調査 調査票設問項目および単純集計結果

集計分析結果の表示にあたっては無回答、無効回答を除いた有効回答数に対する比率を示した。以下の設問項目の一覧では、提示した選択肢に対して無回答、無効回答を含めた比率を表示している。

1. 札幌演奏会調査票 調査票項目

Q1. PMFの演奏会に最初においでになったのはいつごろですか。該当する項目を一つお選びください。

a. 1990年代	33.6%	b. 2000年代	21.1%	c. 2010年代	21.1%	d. 昨年初めて	1.6%
e. 今年が初めて	20.3%	無回答	2.1%	無効回答	0.2%		

Q1-SQ eとお答えの方にお尋ねします。PMFについて初めてお知りになったのはいつ頃でしょうか。

a. 1990年代	22.9%	b. 2000年代	14.2%	c. 2010年代	21.7%	d. 一昨年初めて知った	5.9%
e. 昨年初めて知った	4.0%	f. 今年になってから	27.9%	無回答	3.4%	無効回答	0.0%

Q2. 本日の演奏会にはどのようなきっかけでおいででしょうか。最も該当する項目を一つお選びください。

a. PMFの演奏会を聞きたいと思ったから	35.3%	b. 出演者や曲目に関心があったから	13.9%
c. クラシック音楽を聴きたいから	4.5%	d. 毎年来ているから	14.1%
e. 良い評判を聞いたから	0.3%	f. 友人・知人に誘われたから	4.8%
g. 家族に誘われたから	4.2%	h. 勤め先が応援しているから	1.6%
i. 招待券をもらったから	7.2%	j. 当日券があったから	0.6%
k. ユース・ウィング席が設定されていたので	0.1%	l. その他	1.9%
無回答	1.1%	無効回答	10.3%

Q3. 本日の演奏会にはどういった方とおいででしょうか。該当する項目を一つお選びください。

a. 一人で来た	38.4%	b. 友人・知人と来た	16.5%	c. 家族と来た	42.7%
d. 職場の同僚と来た	1.4%	無回答	0.6%	無効回答	0.3%

Q4. PMFについてお知りになりたいことがあるとき、どのような情報源を利用されますか。該当する項目すべてを○印でお答えください。

a. テレビ	8.1%	e. ソーシャルメディア・インターネット	15.6%
b. 新聞	17.8%	h. 友人・知人	7.0%
c. PMFの公式ホームページ	70.2%	i. 街頭広告	3.4%
d. PMF月間メールサービス	11.4%	j. 広報さっぽろ	7.3%
e. PMFフレンズのニュースレター	14.8%	k. 音楽雑誌	1.4%
f. PMFのパンフレット	28.4%	l. その他	3.0%
無回答	1.3%	無効回答	0.0%

Q5. お知りになりたいことは苦勞なく入手できていますか

a. はい	85.4%	b. いいえ	6.1%	無回答	8.5%	無効回答	0.0%
-------	-------	--------	------	-----	------	------	------

Q6. あなたのご友人(学校の同級生や会社の同僚、ご近所の方などを含む親しい方々)はPMFをご存知とお考えでしょうか。該当する項目を一つお選びください。

a. ほぼ全員知っている	8.3%	d. 概ね1/4くらいは知っている	24.0%
b. 概ね3/4くらいは知っている	16.5%	e. ほとんど誰も知らない	17.6%
c. 概ね半分くらいは知っている	30.3%		
無回答	3.2%	無効回答	0.1%

Q8. PMFの公式インターネットサイトには演奏会の映像音声や修了生・教授陣の演奏が配信されていますが、視聴されたことはありますか。

a. 視聴したことがある	21.5%	b. 知っていたが、視聴したことは無い	31.8%	c. 配信していることを知らなかった	41.0%
無回答	5.8%	無効回答	0.0%		

Q9. 以下の項目について、あなたのお考えやお気持ちに近い番号に○印を付けてください。

	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そうは思わない	全くそうは思わない	無回答	無効回答
a クラシック音楽の祭典としてPMFに親近感を感じる	48.5%	41.1%	5.1%	0.6%	0.1%	4.5%	0.0%
b PMFが札幌で開催されていることを誇りに思う	66.5%	25.4%	3.0%	0.3%	0.2%	4.3%	0.3%
c PMFは敷居が高く身近には感じない	2.1%	4.7%	9.0%	39.7%	39.5%	4.8%	0.3%
d 私たちはPMFを通じて世界の音楽文化の発展に寄与している	24.2%	49.5%	17.6%	2.4%	0.3%	6.0%	0.0%
e PMFの演奏会以外の教育・普及活動の内容は良く分からない	2.8%	25.5%	30.5%	25.7%	8.8%	6.3%	0.4%
f 私も若い音楽家の育成に関わっていると感じる	14.1%	31.6%	26.3%	16.9%	4.9%	6.1%	0.1%
g 来年もPMFの演奏会に来たい	59.8%	30.5%	4.1%	0.2%	0.2%	5.1%	0.1%
h PMFをもっと多くの人に知ってもらいたい	50.4%	37.5%	6.0%	0.4%	0.2%	5.2%	0.3%
i 演奏会鑑賞に加えて、PMFに何らかの形でもっと関わってみたい	11.0%	28.2%	40.6%	12.7%	1.2%	6.1%	0.1%
j アカデミー生(オーケストラメンバー)と交流してみたい	7.2%	23.3%	40.6%	20.0%	3.0%	6.0%	0.1%
k 札幌市内においても開催の状況が伝わってこない	3.5%	20.2%	24.5%	34.2%	9.5%	7.9%	0.2%
l PMFは良く知られた音楽フェスティバルだ	15.8%	47.5%	24.0%	6.5%	0.5%	5.6%	0.1%
m これからも長く続いてほしい	74.2%	19.5%	1.4%	0.1%	0.1%	4.8%	0.0%
n 私はクラシック音楽を良く聴く方だ	42.1%	32.8%	13.4%	5.5%	1.0%	5.1%	0.1%

フェースシート

性別

1. 男性	40.1%	2. 女性	55.0%	3. 回答保留	0.4%
無回答	4.6%	無効回答	0.0%		

年齢

1. 小・中学生	2.2%	6. 50歳代	20.7%
2. 高校生～19歳	0.6%	7. 60歳代	27.4%
3. 20歳代	4.3%	8. 70歳以上	22.3%
4. 30歳代	6.1%	無回答	4.8%
5. 40歳代	11.7%	無効回答	0.0%

居住地

1. 札幌市内	77.0%	4. 北海道外	3.6%
2. 札幌市近接市町	7.2%	5. 国外	0.2%
3. 北海道内	6.6%	無回答	5.2%
道南	1.5%	無効回答	0.2%
道北	1.2%		
道東	0.9%		
道央(札幌市近接市町以外)	2.6%		

本日はユース・ウイング席をご利用ですか

1. 利用している	1.8%	2. 利用していない	76.8%	無回答	21.4%	無効回答	0.0%
-----------	------	------------	-------	-----	-------	------	------

2. 道内演奏会調査票 調査票項目

1. 札幌等での開催を含めて、最初にPMFの演奏会に来られたのはいつ頃ですか。該当する項目を一つお選びください。

a. 1990年代	18.6%	b. 2000年代	16.8%	c. 2010年代	22.7%	d. 昨年が初めて	4.5%
e. 今年が初めて	33.5%	無回答	3.8%	無効回答	0.2%		

SQ eとお答えの方にお尋ねします。PMFについて初めてお知りになったのはいつ頃でしょうか。

a. 1990年代	12.9%	b. 2000年代	8.6%	c. 2010年代	15.1%	d. 一昨年	4.8%
e. 昨年	4.8%	f. 今年になってから	50.5%	無回答	2.7%	無効回答	0.5%

2. 本日の演奏会にはどのようなきっかけでおいででしょうか。最も該当する項目を一つお選びください。

(江別、苫小牧)

a. PMFの演奏を聞きたいと思ったから	41.2%	h. 勤め先が応援しているから	1.2%
b. 出演者や曲目に関心があったから	7.1%	i. 招待券をもらったから	3.2%
c. クラシック音楽を聴きたいから	10.0%	j. 当日券があったから	0.3%
d. 良い評判を聞いたから	1.2%	k. その他	4.4%
e. 毎年来ているから	4.7%	無回答	0.6%
f. 友人・知人に誘われたから	8.2%	無効回答	7.6%
g. 家族に誘われたから	10.3%		

(函館)

a. PMFの演奏を聞きたいと思ったから	24.7%	(函館のみ)h. 音鑑会員だから	35.3%
b. 出演者や曲目に関心があったから	7.9%	i. 勤め先が応援しているから	0.0%
c. クラシック音楽を聴きたいから	7.0%	j. 招待券をもらったから	0.9%
d. 良い評判を聞いたから	0.0%	k. 当日券があったから	0.9%
e. 毎年来ているから	2.8%	l. その他	0.9%
f. 友人・知人に誘われたから	2.8%	無回答	0.5%
g. 家族に誘われたから	2.3%	無効回答	14.0%

3. あなたのご友人(学校の同級生や会社の同僚、ご近所の方などを含む親しい方々)はPMFをご存知でしょうか。該当する項目を一つお選びください。(江別、函館)

a. ほぼ全員知っている	8.3%	b. 概ね3/4くらいは知っている	17.3%	c. 概ね半分くらいは知っている	22.8%
d. 概ね1/4くらいは知っている	20.8%	e. ほとんど誰も知らない	25.6%		
無回答	5.1%	無効回答	0.0%		

4. 以下の項目について、あなたのお考えやお気持ちに最も近い番号に○印を付けてください。

	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そうは思わない	全くそうは思わない	無回答	無効回答
a. クラシック音楽の祭典としてPMFに親近感を感じる	38.2%	48.3%	10.6%	1.6%	0.0%	1.3%	0.0%
b. PMFが北海道で開催されていることを誇りに思う	62.2%	32.6%	4.9%	0.2%	0.0%	0.2%	0.0%
c. 来年もPMFの演奏会に来たい	55.3%	37.1%	5.9%	0.5%	0.0%	1.1%	0.0%
d. 私たちはPMFを通じて世界の音楽文化の発展に寄与している	29.7%	44.9%	22.0%	1.4%	0.4%	1.6%	0.0%
e. 私若い音楽家の育成に関わっていると感じる	23.8%	33.9%	29.9%	8.1%	2.3%	1.8%	0.2%
f. PMFをもっと多くの人に知ってもらいたい	47.9%	44.7%	5.9%	0.0%	0.0%	1.4%	0.0%
g. 私はクラシック音楽を良く聴く方だ	37.3%	33.9%	21.3%	5.6%	1.3%	0.7%	0.0%

5. 今回の演奏会はいかがでしたか。該当する項目を一つお選びください。

a. とても満足	54.6%	b. 満足	31.7%	c. 普通	2.9%	d. やや不満	0.2%
e. 不満	0.0%	無回答	10.1%	無効回答	0.5%		

(苫小牧のみ) 5. 今回の演奏会の入場料はいかがでしたか。該当する項目を一つお選びください。

a. とても高い	3.3%	b. 高い	3.7%	c. ちょうど良い	69.1%	d. 安い	13.6%
e. とても安い	7.4%	無回答	2.5%	無効回答	0.4%		

フェースシート

性別

1. 男性	31.0%	2. 女性	66.8%	3. 回答保留	0.5%
無回答	1.4%	無効回答	0.2%		

年齢

1. 小・中学生	9.5%	6. 50歳代	15.9%
2. 高校生～19歳	2.9%	7. 60歳代	23.1%
3. 20歳代	4.0%	8. 70歳以上	27.6%
4. 30歳代	4.3%	無回答	1.1%
5. 40歳代	11.5%	無効回答	0.2%

居住地

1. 市内	82.3%	2. 市外(周辺地域)	11.4%	3. 市外(周辺地域外)	5.2%
無回答	1.1%	無効回答	0.0%		

3. 東京演奏会調査票 調査票項目

1. 今回の演奏会を何でお知りになりましたか。該当する項目をすべてお選びください。

a. テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	11.1%	e. 友人・知人・家族	26.8%
b. PMFのホームページ	20.9%	f. 街頭広告	0.7%
c. PMFのパンフレット	15.7%	g. 組織委員会からの案内	6.5%
d. PMF以外のインターネット	17.6%	h. その他	18.3%
無回答	0.0%	無効回答	0.0%

2. 本日を含めて、首都圏でのPMF演奏会ご来場は何回目でしょうか。該当する項目を一つお選びください。

a. 初めて	52.3%	b. 2回目	15.7%	c. 3~4回目	11.1%
d. 5回以上	20.9%	無回答	0.0%	無効回答	0.0%

3. 東京、札幌等での開催を含めて最初にPMF演奏会に来られたのはいつですか。該当する項目を一つお選びください。

a. 1990年代	14.4%	b. 2000年代	13.7%	c. 2010年代	21.6%
d. 昨年が初めて	0.7%	e. 今年が初めて	44.4%		
無回答	5.2%	無効回答	0.0%		

4. 札幌でのPMFにおいてになったことはありますか。

a. ある	18.3%	b. ない	78.4%	無回答	3.3%	無効回答	0.0%
-------	-------	-------	-------	-----	------	------	------

5. 以下の項目について、あなたのお考えやお気持ちに最も近い番号に○印を付けてください。

	強く思う	そう思う	どちらとも言えない	そうは思わない	全くそうは思わない	無回答	無効回答
a. クラシック音楽の祭典としてPMFに親近感を感じる	37.9%	41.2%	17.6%	1.3%	1.3%	0.7%	0.0%
b. PMFが日本で開催されていることを誇りに思う	52.3%	35.3%	9.8%	0.0%	0.0%	2.0%	0.7%
c. 来年もPMFの演奏会に来たい	42.5%	42.5%	11.1%	0.0%	0.7%	2.6%	0.7%
d. 私たちはPMFを通じて世界の音楽文化の発展に寄与している	31.4%	43.8%	21.6%	0.7%	1.3%	1.3%	0.0%
e. 私も若い音楽家の育成に関わっていると感じる	26.8%	38.6%	22.2%	7.8%	3.3%	1.3%	0.0%
f. PMFをもっと多くの人に知ってもらいたい	49.0%	39.2%	9.8%	0.0%	0.7%	1.3%	0.0%
g. 私はクラシック音楽を良く聴く方だ	56.9%	30.1%	7.8%	3.9%	0.0%	1.3%	0.0%

6. あなたのご友人(学校の同級生や会社の同僚、ご近所の方などを含む親しい方々)はPMFをご存知でしょうか。

a. ほぼ全員知っている	0.7%	d. 概ね1/4くらいは知っている	24.2%
b. 概ね3/4くらいは知っている	2.6%	e. ほとんど誰も知らない	61.4%
c. 概ね半分くらいは知っている	7.8%		
無回答	3.3%	無効回答	0.0%

フェースシート

性別

1. 男性	45.1%	2. 女性	52.3%	3. 回答保留	1.3%
無回答	1.3%	無効回答	0.0%		

年齢

1. 小・中学生	2.0%	5. 40歳代	5.2%
2. 高校生～19歳	5.9%	6. 50歳代	31.4%
3. 20歳代	9.2%	7. 60歳代	24.8%
4. 30歳代	2.6%	8. 70歳以上	17.0%
無回答	2.0%	無効回答	0.0%

居住地

1. 東京都	54.2%	2. 神奈川・埼玉・千葉	38.6%	3. 茨城・栃木・群馬・山梨	0.7%
4. 首都圏外	4.6%	5. 海外	0.7%		
無回答	0.7%	無効回答	0.7%		